

# 目 次

I	令和元年度 さいたま市学習状況調査の概要	1
II	調査結果と特徴的な問題の解説	
i	小学校第3学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	4
2	調査問題一覧表【設問別】	5
3	特徴的な問題と解説	6
ii	小学校第4学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	8
2	調査問題一覧表【設問別】	9
3	特徴的な問題と解説	10
iii	小学校第5学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	12
2	調査問題一覧表【設問別】	13
3	特徴的な問題と解説	14
iv	小学校第6学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	18
2	調査問題一覧表【設問別】	19
3	特徴的な問題と解説	20
v	中学校第1学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	24
2	調査問題一覧表【設問別】	25
3	特徴的な問題と解説	26
vi	中学校第2学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	30
2	調査問題一覧表【設問別】	31
3	特徴的な問題と解説	32
III	領域別調査結果概況	36
IV	解答類型を基にした分析	37

# I 令和元年度 さいたま市学習状況調査の概要

## 1 調査の目的

- (1) 各学校は、自校の教育の成果と課題について、市全体の状況を基に、継続的かつ多面的に把握・分析し、教育課程の編成に生かすとともに、「さいたま市小・中一貫教育」を踏まえ、教育指導の工夫改善に取り組む。
- (2) 児童生徒は、自らの学力面の伸びや課題及び生活面の成長や課題を継続的に把握し、理解することで、よりよい学習習慣や生活習慣の確立のために生かす。
- (3) さいたま市教育委員会（以下、「教育委員会」という。）は、児童生徒の学習や生活状況について、継続的かつ多面的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。さらに、そのような取組を通じて、学校における教育指導の継続的な工夫改善サイクルを確立する。

## 2 調査の対象

- (1) さいたま市立小・中・中等教育・特別支援学校の原則として各学年の全児童生徒を対象とする。なお、これ以降、小学校及び特別支援学校小学部を「小学校」、中学校、中等教育学校前期課程及び特別支援学校中学部を「中学校」と示す。
- (2) 「学力に関する調査」は小学校第3学年から中学校第3学年まで、「生活習慣等に関する調査」は全学年で実施する。なお、中学校第3学年の「学力に関する調査」については、中学校長会主催の「さいたま市学力検査」を充てる。
- (3) 特別支援学校及び小・中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、調査の対象となる教科について、以下に該当する児童生徒は、調査の対象としないことを原則とする。
  - ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒
  - イ 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている児童生徒
- (4) 日本語指導が必要な児童生徒については、原則として、他の児童生徒と同様の授業を受けている場合、調査の対象とする。ただし、取出し指導を受けているなどの事情がある場合は、当該教科を調査の対象としないことを可能とする。

## 3 調査の内容

- (1) 実施教科・時間・順序については、表1、2のとおりとする。

<表1> 数字は調査に要する時間を示す。(単位：分)

調査対象		「学力に関する調査」 教科・時間・順序 ※		「生活習慣等に関する調査」
		1校時	2校時	
		国語	算数	
小学校	第1学年			30
	第2学年			
	第3学年	20	20	
	第4学年	20	20	
	第5学年	40	40	
	第6学年	40	40	

※ 網掛けは実施しない教科

<表2> 数字は調査に要する時間を示す。(単位：分)

調査対象		「学力に関する調査」 教科・時間・順序		「生活習慣等に関する調査」
		1校時	2校時	
		国語	数学	
中学校	第1学年	50	50	30
	第2学年	50	50	
	第3学年	※		

※ 中学校第3学年の「学力に関する調査」については、中学校長会主催の「さいたま市学力検査」をもって充てることとし、教科・時間・順序は「令和元年度 さいたま市学力検査実施要項」による。

## (2) 調査事項

### ア 「学力に関する調査」

(ア) 小学校第3学年から中学校第2学年までの出題範囲は、「さいたま市小・中一貫教育」カリキュラムに示された年間指導計画例を基本として、当該学年の11月までの指導事項を原則とする。

(イ) 出題の内容は、これまでの「さいたま市学習状況調査」及び「全国学力・学習状況調査」の課題に関わる内容を含め、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 当該学年及び前学年までの知識・技能等を中心とした出題（基礎問題）
- ② 当該学年及び前学年までの知識・技能等を実生活の様々な場面で活用する出題（活用問題）
- ③ 課題解決に向けて思考し、判断する力、表現する力等に関わる内容の出題（チャレンジ問題）

※チャレンジ問題の出題は、中学校国語、中学校数学のみ

(ウ) 出題の形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

(エ) 中学校第3学年については、「令和元年度 さいたま市学力検査実施要項」及び「令和元年度さいたま市学力検査問題作成要領」に基づく。

### イ 「生活習慣等に関する調査」

(ア) 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等について、調査する。ただし、個人の思想や信条等に踏み込んだ質問項目は設定しない。

(イ) 調査に要する時間は表1、2に示した時間を原則とするが、各学校・各学年の状況に応じて適切な時間を充てるものとする。

(3) 「さいたま市小・中一貫教育」に基づき、各教科において指導事項の定着状況を把握するために、複数学年で同一あるいは類似の問題を出題している。国語科については、以下の表のとおりである。

調査問題の概要	出題した学年と問題番号	備考
辞書の活用	小5 3、小6 3	類似問題
よりよい文字を書く	小3 2、小4 2、小5 2、小6 2	類似問題
文章中の接続詞を選ぶ	中1 2問3、中2 2問1	類似問題
漢字の書き（新）	小3 1問一ウ、小4 1問一オ	類似問題
漢字の書き（積極）	小6 1問一（選択）、中1 4問2（短答）	類似問題
漢字の読み（快く）	中1 4問5、中2 4問5	同一問題
主語と述語の関係	小3 1問二、小4 1問二、小5 1問二、小6 1問二 中1 5問1、中2 5問1	類似問題
指示語の使い方	小3 1問三、小4 1問三	同一問題
接続語の働き	中1 5問3、中2 5問2	同一問題
歴史的仮名遣い	中1 5問5、中2 5問4(1)	類似問題
詩の表現技法	中1 5問7、中2 5問6	類似問題
複数の資料を用いて考えを書く	中1 6、中2 6	類似問題
敬語の使い方	小5 1問三、小6 1問三	同一問題
意図を捉えながら聞く	小5 8問一、小6 9問一	同一問題
話の構成を考える	小5 8問二、小6 9問二	同一問題
スピーチで気を付けること	小3 6、小4 5	同一問題

## 4 調査実施日等

(1) 調査実施日は、令和2年1月9日（木）とする。

(2) 小学校第1、2学年の「生活習慣等に関する調査」は、各学校の状況に応じて、調査用紙の家庭への配布日を決定し、適切な回収期間を設定して実施する。

(3) 小学校第3～6学年及び中学校における「生活習慣等に関する調査」は、各学校の状況に応じて、別日に行うことを可能とする。ただし、学校または学年で実施日を統一して実施する。

## Ⅱ 調査結果と

# 特徴的な問題の解説

国語科の調査問題について、小学校第3学年から中学校第2学年まで、以下の内容を掲載しています。「さいたま市小・中一貫教育」の観点からも、小・中学校それぞれの内容を日々の学習指導に役立ててください。

### 1 調査問題【出題の趣旨】

大問ごとに、出題の意図や趣旨を示しています。特記すべき事項のあるものについては、ここに示しています。

### 2 調査問題一覧表

設問ごとに、問題の種類、学習指導要領の領域等、評価の観点、設問のねらい、市の正答率を示しています。

### 3 特徴的な問題と解説

令和元年度調査において、特徴的な問題を取り上げ、出題の趣旨、指導のポイントを示しています。

i 小学校第3学年

1 調査問題【出題の趣旨】

1 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	一	漢字	本問題は、当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができているかどうかをみる問題である。そのために、手紙や見学のまとめといった日常で使われる場面を設定し、その中で漢字を適切に選ぶことができるかどうかを問う問題構成とした。
	二	主語と述語	本問題は、文の中の主語と述語の関係を理解しているかどうかをみる問題である。主語と述語は、文の骨格をなし、明瞭な文を書く最も基礎的な事項であることから、平成30年度同様、今年度も出題した。なお、類似の問題を小3～小6で出題している。
	三	指示語	本問題は、指示語の役割を理解しているかどうかをみる問題である。ここでは、指示語が文や文章の構成に関わる語で、文章の論理的な関係を構築する上で大切な役割を果たしていることを理解しながら、文章を読む力が求められる。
2 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		穂先の向きに注意して書く	本問題は、穂先の向きに注意して書くことができるかどうかをみる問題である。ここでは、毛筆で文字を書く際に気を付けさせたい点として、文字の大きさ、「おれ」や「はね」の方向を取り上げている。
3 読むこと		たこを高く上げる方法をまとめる	本問題は、目的に応じて、中心になる語や文を捉えて、文章を読むことができるかどうかをみる問題である。ここでは、説明的な文章を読み、文と文との関係を押さえ、中心となる語句や文に着目しながら、文脈に合う適切な言葉を選択する力が求められる。
4 読むこと		モンシロチョウについて調べる	本問題は、目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むことができるかどうかをみる問題である。ここでは、目的に合わせた本の選び方、目次や索引、百科事典の背表紙の使い方など、本や文章を活用する力が求められる。
5 書くこと		思い出を作文にまとめる	本問題は、敬体と常体の違いに注意しながら書くことができるかどうかをみる問題である。ここでは、相手や目的に応じて敬体と常体を意識的に使い分け、文末表現に注意しながら書く力が求められる。
6 読むこと		3学期の目標についてスピーチする	本問題は、相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すことができるかどうかをみる問題である。ここでは、音声の面から話し手が気を付けることについて理解していることが求められる。

本書では、調査名について、略称を用いている。

略称	調査名
平成〇年度全国調査	平成〇年度 全国学力・学習状況調査
平成〇年度市調査【小〇】【中〇】	平成〇年度 さいたま市学習状況調査 小〇国語 中〇国語

## 2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題		学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題		
		基礎問題	活用問題	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	質・量に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力		言語能力	正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名【学年】	正答率(%)	出題学年	正答率(%)
1ーア	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(時)	○					○					○	選	82.4	1.5				
1ーイ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(科)	○					○					○	選	90.3	1.7				
1ーウ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(町)	○					○					○	選	85.9	2.2				
1ーエ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(気)	○					○					○	選	76.7	2.0				
1ーオ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(新)	○					○					○	選	76.9	2.2			小4	78.1
1ニア	文の中の主語と述語の関係を理解している。	○					○					○	選	76.0	1.9	H30市【小3】	77.9	小4	80.7
1ニイ	文の中の主語と述語の関係を理解している。	○					○					○	選	36.8	2.4	H30市【小3】	56.9	小4	41.8
1三	指示語の役割を理解している。	○					○					○	選	76.7	3.1	H29市【小3】	66.2	小4	86.7
2	穂先の向きに注意して書くことができる。	○					○					○	選	86.4	1.8	H28市【小3】	79.1		
3	目的に応じて、中心になる語や文を捉えて、文章を読むことができる。		○				○					○	選	59.3	3.6				
4大百科	目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むことができる。		○				○					○	選	80.9	10.1				
4ずかん	目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むことができる。	○					○					○	選	75.6	9.6				
5番号	敬体と常体の違いに注意しながら書くことができる。	○					○					○	選	80.8	12.0				
5直し	敬体と常体の違いに注意しながら書くことができる。						○					○	記	69.2	23.6	H28市【小4】	75.4		
6	相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すことができる。	○		○								○	選	32.9	15.1	H28市【小3】 H29市【小4】	36.5 53.8	小4	49.9

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている(同一問題には○を付けている)。

調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査 「全国」：全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

「記述式」とは、いくつかの選択肢やいろいろな考え方、答え方があるものなどについて、自分の考えを明確にして書く問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

# 小学校第3学年 「読むこと」

## 特徴的な問題

問題 大問 4

## 出題の趣旨

本問題は、目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むことができるかどうかをみる問題である。ここでは、目的に合わせた本の選び方、目次や索引、百科事典の背表紙の使い方など、本や文章を活用する力が求められる。

## 指導のポイント

### 国語科に限らず、必要な情報を得るために調べる学習を積み重ねる

図鑑や事典の使い方を理解し使うことは、情報化社会において必要な情報を収集したり、語彙を豊かにしたりするために必要な「知識及び技能」である。

中学年になると、自らの課題を解決するための必要な情報を得るために様々な本や文章を取捨選択しながら読む活動が増えてくる。その際、調べ学習を行う際に利用する図鑑や事典などについては、目次や索引を利用することが効果的である。

目次は、本全体で何が書かれているのかを概観することができる。索引は、本に掲載されている事柄や言葉などから検索して読むことができる。そのため、目次や索引を利用すると、自分が必要とする情報が書かれていそうなページに見当を付けて読むことができる。目次や索引のそれぞれの特徴を理解して利用するなど、本や文章全体から必要な情報を得るための効果的な読み方を身に付け、活用できるようにすることが大切である。

国語科に限らず、他の教科等の調べる学習や日常生活の中でも、調べる学習などを積み重ねる中で、児童が必要を感じた時などに適宜指導し、その有効性を実感できるようにすることが大切である。

【川村さんは、モンシロチョウについて調べるために、次の「こん虫大百科」と「こん虫ずかん」の二冊の本をかりました。それぞれ、どのページから読み進めたらよいですか。「こん虫大百科」の目次の①～④の中から一つ、「こん虫ずかん」のさくいんの⑤～⑧の中から一つえらび、それぞれ番号を答えましょう。

### 【3年生の各教科で図鑑や事典が使えるような学習(例)】



【社会】

「昔の道具と暮らし」の学習で

【理科】

「つくってあそぼう」の学習で

【国語】

「くらしと絵文字」の学習で

(参照)

- ・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」
- ・国立教育政策研究所「平成31年度 全国学力・学習状況調査 報告書 小学校 国語」

# 小学校第3学年 「書くこと」

## 特徴的な問題

問題 大問 5

## 出題の趣旨

本問題は、敬体と常体の違いに注意しながら書くことができるかどうかをみる問題である。ここでは、相手や目的に応じて敬体と常体を意識的に使い分け、文末表現に注意しながら書く力が求められる。

## 指導のポイント

### 相手や目的などに応じ、敬体や常体を使い分けて書く

文章を書くときには、相手や目的に応じて「～です」「～ます」の敬体と「～だ」「～である」の常体のどちらかを使用して書くことになる。敬体と常体の違いを意識し、それぞれを適切に使い分けられるようにすることが重要である。敬体と常体のそれぞれの表現の効果を押さえた上で、これらが混同されている文を例示し、書き直す箇所を指摘するなどして、適切に使い分けられるよう指導することが大切である。

「話すこと・聞くこと」においては、公的な場面でスピーチをする際、敬体を用いて話すことができるように指導することが大切である。また、「書くこと」においては、礼状や依頼文を書く際、書く相手や手紙の書式に合わせて敬体を使って書くことができるように指導することが大切である。

### 「敬体や常体の違い」に関する学習の系統性を意識した指導をする

国語科の学習内容は、系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、資質・能力の定着を図ることを基本としている。以下に、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」に書かれている「敬体や常体の違い」に関する指導事項を記載した。

〔知識及び技能〕(1)言葉の特徴や使い方に関する指導 ○言葉遣い

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
キ 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。	キ 丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体の違いに注意しながら書くこと。	キ 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。

(参照)

- ・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」
- ・国立教育政策研究所「平成23年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 小学校 国語」

5

田中さんは、冬休みの思い出を作文にまとめました。読み返してみると、書き直したほうがよいところが見つかりました。書き直したほうがよいところを、次の1〜4の中から一つえらび、その番号を答えましょう。また、えらんだ部分を正しく書き直しましょう。

わたしは、十二月二十八日におばあちゃんの家でおもちつきをしました<sup>1</sup>。

むしたお米を、みんなできょうかして、リズムよくつきました。だんだんと、かたまりになって、おもちができた<sup>2</sup>。すると、お母さんが

「さっそく、みんなで食べましょう<sup>3</sup>。」

と、言いました。おもちは、とてもやわらかくておいしかったです<sup>4</sup>。

(平成28年度市調査4年で出題した問題)

わたしは、お正月におばあちゃんの家でおせち料理を食べました。

どれもおいしそうだったので、最初に何から食べようかまよっていた<sup>ア</sup>。すると、お母さんが、

「おせち料理には、一つ一つ意味があるのよ<sup>イ</sup>。」

と、教えてくれました。わたしは、どんな意味があるのか気になったので、調べてみることにしました<sup>エ</sup>。

ii 小学校第4学年

1 調査問題【出題の趣旨】

1 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	一	漢字	本問題は、当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができているかどうかをみる問題である。そのために、手紙や見学のまとめといった日常で使われる場面を設定し、その中で漢字を適切に選ぶことができるかどうかを問う問題構成とした。
	二	主語と述語	本問題は、文の中の主語と述語の関係を理解しているかどうかをみる問題である。主語と述語は、文の骨格をなし、明瞭な文を書く最も基礎的な事項であることから、平成30年度同様、今年度も出題した。なお、類似の問題を小3～小6で出題している。
	三	指示語	本問題は、指示語の役割を理解しているかどうかをみる問題である。ここでは、指示語が文や文章の構成に関わる語で、文章の論理的な関係を構築する上で大切な役割を果たしていることを理解しながら、文章を読む力が求められる。
2 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		文字の組立て方を理解して書く	本問題は、文字の組立て方を理解して書くことができるかどうかをみる問題である。ここでは、毛筆で文字を書く際に気を付けさせたい点として、始筆から終筆までの筆使い、文字の組立て方、「右はらい」のときの筆圧や文字の大きさ、「おれ」や「はね」の方向を取り上げている。
3 読むこと		「われないシャボン玉」のページを読む	本問題は、目的に応じて、中心になる語や文を捉えて、文章を読むことができるかどうかをみる問題である。ここでは、説明的な文章を読み、文と文との関係を押さえ、中心となる語句や文に着目しながら、文脈に合う適切な言葉を選択する力が求められる。
4 書くこと		気温の変わり方についてまとめる	本問題は、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べることができるかどうかをみる問題である。ここでは、何のために書くのか、読み手はどのような内容を知りたいのかなど、文章を書く相手や目的を念頭に置きながら、必要な情報を正しく読む力が求められる。
・聞くこと	5 話すこと	3学期の目標についてスピーチする	本問題は、相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すことができるかどうかをみる問題である。ここでは、音声の面から話し手が気を付けることについて理解していることが求められる。
・聞くこと	6 話すこと	学級の歌のタイトルを決める	本問題は、互いの考えを聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合うことができるかどうかをみる問題である。ここでは、話し合ったことを伝えるために、報告者がどのようなことを報告しているかを捉える力が求められる。

## 2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題		学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		基礎問題	活用問題	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力		技能語についての知識・理解・	正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名【学年】	正答率(%)	出題学年
1ーア	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(消)	○				○					○	選	90.7	0.8				
1ーイ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(屋)	○				○					○	選	66.8	1.2				
1ーウ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(軽)	○				○					○	選	86.3	1.3				
1ーエ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(持)	○				○					○	選	86.9	1.4				
1ーオ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(新)	○				○					○	選	78.1	1.4			小3	76.9
1ニア	文の中の主語と述語の関係を理解している。	○				○					○	選	80.7	0.8	H30市【小4】	85.8	小3	76.0
1ニイ	文の中の主語と述語の関係を理解している。	○				○					○	選	41.8	0.9	H30市【小4】	76.1	小3	36.8
1三	指示語の役割を理解している。	○				○					○	選	86.7	1.2	H29市【小4】	94.9	小3	76.7
2	文字の組立て方を理解して書くことができる。	○				○					○	選	64.7	1.0	H28市【小4】	85.0		
3小林	目的に応じて、中心になる語や文を捉えて、文章を読むことができる。		○			○					○	選	66.1	1.8				
3川村	目的に応じて、中心になる語や文を捉えて、文章を読むことができる。		○			○					○	選	55.8	1.9				
4	相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べることができる。	○				○					○	記	41.0	6.8				
5	相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すことができる。	○		○							○	選	49.9	6.6	H28市【小3】 H29市【小4】	36.5 53.8	小3	32.9
6	互いの考えを聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合うことができる。	○		○							○	選	71.2	9.6				

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている(同一問題には◎を付けている)。

調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査 「全国」：全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「記述式」とは、いくつかの選択肢やいろいろな考え方、答え方があるものなどについて、自分の考えを明確にして書く問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

# 小学校第4学年 「話すこと・聞くこと」

## 特徴的な問題

問題 大問 6

## 出題の趣旨

本問題は、互いの考えを聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合うことができるかどうかをみる問題である。ここでは、話し合ったことを伝えるために、報告者がどのようなことを報告しているかを捉える力が求められる。

## 指導のポイント

### 司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの考えの共通点や相違点を整理する

話し合いには、一つのことにまとめていく、合意を形成する、考えを広げたり深めたりするなど、様々な話し合いがある。いずれの場合も、話し合いの目的や目指す到達点、そこに向かう話し合いの進め方などを確認し、司会者や提案者、参加者などの役割に基づいて、話し合う目的や必要性を意識して話し合いを進めていく必要がある。

<p>＜司会者の役割＞</p> <p>目的に応じて適切に話し合いを進行することが挙げられる。そのためには、参加者に発言を促したり、発言の共通点や相違点を確認したり、話し合った内容をまとめることができるようにすることが大切である。</p> 	<p>＜提案者の役割＞</p> <p>参加者全員に考えが伝わるように、話す内容を整理することが挙げられる。その際、話し方に注意しながら、説明したり、報告したりすることができるようにすることが大切である。</p> 	<p>＜参加者の役割＞</p> <p>進行に合わせながら、積極的に自分の考えを述べ、話し合いに加わることが挙げられる。</p> 	<p>その他 の役割</p> <p>＜記録＞</p>  <p>＜時計＞</p> 
--	---	---	--

様々な話し合いの場面において、児童一人ひとりがそれぞれの役割について学ぶことができるように、意図的、計画的に機会を設定することが大切である。

具体的には、教師の演示などによる話し合いのモデルを提示し、互いの考えの共通点や相違点を確認しながら話し合いを進めている様子を具体的に示すことが考えられる。その際、考えが相違するときには、それぞれの考えがどのようなことに基づいているのかということに着目することができるように指導することが大切である。また、特別活動において集団としての意見をまとめる話し合い活動を行うなど他教科等とも関連付け、児童の日常生活に生きて働くように多くの場を設定することが重要である。



(参照)

・国立教育政策研究所「平成29年度 全国学力・学習状況調査 報告書 小学校 国語」

(問い)

島田さんは、どのようなことをほうこくしていますか。その説明として、さわしいものを、次の1〜4の中から一つ選び、その番号を書きましょう。

1 同じ意見でも理由がちがうことをほうこくしている。  
 2 学級全体で取り上げてほしいことをほうこくしている。  
 3 一番多く出されたことをほうこくしている。  
 4 話し合っ一つにまとまった意見をほうこくしている。

島田さんの学級では、学級の歌のタイトルを決めています。次は、タイトルについて、それぞれのグループで話し合ったことについて、「ほうこくし合う場面の一語」です。これを読んで、あとの(問い)に答えましょう。

「ほうこくし合う場面の一語」

高野 学級の歌は、学級目標を主としたタイトルにしようというところまでは決まっています。それをふまえて、ここまで話し合ったことを田中さんのグループから順番に発表してください。

田中 わたしのグループでは、「なかよし」がよいという意見にまとまりました。理由は、学級目標にこの言葉があるからです。

山口 ぼくのグループでも、「なかよし」がよいということになりました。理由は、タイトルを見るだけで、なかよくなるような気がするからです。

島田 わたしのグループでも、目標にある「なかよし」がよいという意見がありました。しかし、学級一人ひとりから選んでもらうように、「えがお」がよいという意見も出ました。どちらもよいので二つの意見をまとめて「えがおなかよし」という意見に決まりました。

# 小学校第4学年 「読むこと」

## 特徴的な問題

問題 大問 3

## 出題の趣旨

本問題は、目的に応じて、中心となる語や文を捉えて、文章を読むことができるかどうかをみる問題である。ここでは、説明的な文章を読み、文と文との関係を押さえ、中心となる語句や文に着目しながら、文脈に合う適切な言葉を選択する力が求められる。

## 指導のポイント

### 目的に応じて必要な情報を捉えて読む

中・高学年では、目的に応じていろいろな文や文章を分析的に読み、内容の中心を捉えたり、段落相互の関係を考え、全体の構成を把握し、自分の考えをまとめたりしながら読むなど、課題を解決するために必要な情報を捉えて読む活動が増える。日常生活においても、図鑑や事典、説明書、インターネットの記述などから自分が知りたい情報を見つけて読む機会が多くなる。そこでは、目的に応じて中心となる語や文を捉えて読む能力が必要になる。

「目的に応じて」とは、本問題を例に挙げると「うまくシャボン玉を作りたい」「もっとわれにくくしたい」のように、何のために調べるのか、何について調べるのかを明らかにすることである。

目的に応じて、中心となる語や文を捉えて読むことができるようにするためには、学習活動において以下のような工夫をすることが重要である。

### <学習活動例① 目的を明確に調べる内容を具体的にしながら読む>

#### ～指導の工夫～

何のために調べるのかという目的を明確にし、何について調べるのかを具体的にすることで、自分が必要とする情報がどこにどのように書かれているかを捉えることができるようになる。何について調べるのかを具体的にするためには、本問にあるように、自分の活動を振り返り、新たな課題を見付けたり、目的を焦点化したりすることができるような学習過程の設定が有効になる。

### <学習活動例② 身に付けた図鑑や事典などの読み方を使って読む>

#### ～指導の工夫～

目次や索引、見出しに着目して読む、キーワードを見付けながら読む、図表と結び付けて読むなど、図鑑や事典から必要な情報を得るための方法を使って、児童がその有効性を実感できるようにすることが大切である。

### <学習活動例③ 国語科で身に付けたことを他教科で活用しながら読む>

#### ～指導の工夫～

国語科で身に付けた、図鑑や事典から必要な情報を得るための方法を、他教科等の学習活動に生かすことができる機会を意図的に設定する。その際、必要な情報を捉えて読むことで課題解決を図ることができたかどうかを振り返る時間を設け、児童がその有効性を実感できるようにする。

(参照)

・ 国立教育政策研究所「平成30年度 全国学力・学習状況調査 報告書 小学校 国語」

【われないシャボン玉のページ】

身近にあるものでかんたん！  
われないシャボン玉

材料  
・水：200mL  
・台所用せっけん：50mL  
・さとう：大さじ2杯  
・ストロー：1本

作り方  
1 水は一度ふっとうさせ、ぬるま湯まで冷まします。  
2 冷ました水にさとうを加え、しっかりと混ぜておきます。  
3 さとうが溶けたら、台所用せっけんを加えて混ぜ合わせます。  
4 ストローに、シャボンえきを付けておきます。

ポイント  
さとうを溶かすときは、しっかりと溶かし切ろう。どけ残りがあるとわれやすくなってしまいますよ。

せんでいませるときにあわができてしまうと、われやすくなってしまいますよ。静かに混ぜよう。

われない理由  
シャボン玉は、上の部分のせんでいせで下に流れ落ちて、まわがうすくなるでわれてしまいます。さとうは、水分をたもつ働きがあり、まわがうすくなるのをふせて、われにくくしてくれます。

集めて、せんでいせで下に流れ落ちるよ。だから、上のほうは、うすくなってしまいますよ。

集の作り方  
もしあれば、さとうの代わりに、せんたくりを使ってみましょう。さとうよりもさらにわれにくくなります。

「作り方」や「ポイント」に気を付けて作ったのに、思っていたよりもわれやすかったな。もっとわれにくくなる材料はないかな。

「作り方」のとおりには、さとうやせっけんを混ぜたのに、うまくシャボン玉ができませんでした。シャボンえきにたくさんあわができてしまったからかな。

田村さん 小林さん

③ 小林さんと田村さんは、科学クラブに入って活動しています。前回のクラブでは、「われないシャボン玉のページ」を読み、シャボン玉を作りました。次の「われないシャボン玉のページ」と「シャボン玉を作ったあとの感想」をよく読んで、あとの「問い」に答えましょう。

iii 小学校第5学年

1 調査問題【出題の趣旨】

1 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	—	漢字	本問題は、当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題である。そのために、手紙や見学のまとめといった日常で使われる場面を設定し、その中で漢字を適切に選ぶことができるかどうかを問う問題構成とした。
	二	主語と述語	本問題は、文の中の主語と述語の関係を理解しているかどうかをみる問題である。主語と述語は、文の骨格をなし、明瞭な文を書く最も基礎的な事項であることから、平成30年度同様、今年度も出題した。なお、類似の問題を小3～小6で出題している。
	三	敬語	本問題は、相手や場面に応じて適切に敬語を使うことができるかどうかをみる問題である。ここでは、相手と自分との関係やその場の状況を意識して適切に敬語を使う力が求められる。
質に関する事項 文化・国語の特質	2 伝統的な言語	用紙全体との関係に注意して書く	本問題は、用紙全体との関係に注意して書くことができるかどうかをみる問題である。ここでは、毛筆で文字を書く際に気を付けさせたい点として、筆圧の変化、文字の中心、用紙全体との関係を取り上げている。
	3 伝統的な言語	国語辞典を使って調べる	本問題は、表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べることができるかどうかをみる問題である。ここでは、国語辞典に示されたそれぞれの意味と例文とを関係付けた上で、文脈に適した意味を適切に捉える力が求められる。
4 書くこと	—	お礼の手紙を書く	本問題は、目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして、詳しく書くことができるかどうかをみる問題である。ここでは、お世話になった人に感謝の思いを伝えるために、何を取り上げて書くのがよいかを考える力が求められる。
	二		本問題は、自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えることができるかどうかをみる問題である。ここでは、手紙の構成を理解し、後付けを書く力が求められる。
5 話すこと・聞くこと	—	児童代表のあいさつをする	本問題は、目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように、話の構成を工夫しながら話すことができるかどうかをみる問題である。ここでは、話し手の挨拶を聞き、その中に用いられている表現方法を適切に捉える力が求められる。
6 読むこと	—	将来なりたい職業について調べる	本問題は、目的に応じて、複数の本や文章を選んで読むことができるかどうかをみる問題である。ここでは、読む目的をもち、その目的に応じて、自分にとって必要な情報を明らかにし、複数の本や文章を読む力が求められる。
	二		本問題は、目的に応じて、複数の本や文章を比べて読むなど、効果的な読み方を工夫することができるかどうかをみる問題である。ここでは、調べる内容を確かめながら、一方の資料の情報を他の資料に当てはめながら読む力が求められる。
7 書くこと	—	物語の下書きを書き直す	本問題は、表現の効果などについて、確かめたり工夫したりすることができるかどうかをみる問題である。ここでは、書き直しの前後の物語を比べ、両方の表現の仕方や効果を評価した上で、語り手が寄り添っている人物を捉える力が求められる。
8 話すこと・聞くこと	—	「ロボットに期待すること」について発表する	本問題は、話し手の意図を捉えながら聞くことができるかどうかをみる問題である。ここでは、話の目的は何か、自分に伝えたいことは何か、共に考えたいことは何かなどを踏まえて、話の内容を十分に聞き取る力が求められる。
	二		本問題は、話の内容が明確になるように、話の構成を考えることができるかどうかをみる問題である。ここでは、伝えたいことを明確にし、それを分かりやすく伝えるために、聞き手の反応から、話の受け止め方や理解の状況を捉え、それを踏まえながら話す力が求められる。

## 2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題		学習指導要領の領域等				評価の観点					問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		基礎問題	活用問題	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	の伝統的な言語文化と国語	言語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	解言・語について	選択式・記述式・短文記述式	正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名【学年】	正答率(%)	出題学年	正答率(%)
1ーア	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(課)	○					○					○	選	50.2	0.4				
1ーイ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(員)	○					○					○	選	94.6	0.5				
1ーウ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(道)	○					○					○	選	90.5	0.6				
1ーエ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(景)	○					○					○	選	94.9	0.5				
1ニア	文の中の主語と述語の関係を理解している。	○					○					○	選	74.0	0.4	H30市【5年】	85.6	小6	82.5
1ニイ	文の中の主語と述語の関係を理解している。	○					○					○	選	57.4	0.5	H30市【5年】	61.4	小6	64.8
1三	相手や場面に応じて、適切に敬語を使うことができる。	○					○					○	選	51.1	0.7	H30全国	60.3	小6	67.8
2	用紙全体との関係に注意して書くことができる。	○					○					○	選	93.3	0.2	H28市【5年】	85.1		
3	表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べることができる。	○					○					○	選	85.8	0.3	H22全国	80.3		
4ー	目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして、詳しく書くことができる。	○					○						選	91.8	0.6				
4二	自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えることができる。	○					○						選	43.1	1.0				
5	目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように、話の構成を工夫しながら話すことができる。	○					○						選	55.2	0.8	H29市【6年】	76.5		
6ー	目的に応じて、複数の本や文章を選んで読むことができる。	○					○						選	88.2	0.9				
6二	目的に応じて、複数の本や文章を比べて読むなど、効果的な読み方を工夫することができる。	○					○						選	81.8	1.0	H28全国	79.2		
7	表現の効果などについて、確かめたり工夫したりすることができる。	○					○						短	69.4	4.7				
8ー	話し手の意図を捉えながら聞くことができる。	○					○						選	79.7	1.4			小6	84.1
8二	話の内容が明確になるように、話の構成を考えることができる。	○					○						選	81.4	2.0			小6	84.0

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には○を付けている）。

調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査 「全国」：全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している（H22全国の数値は埼玉県の数値を示している）。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「記述式」とは、いくつかの選択肢やいろいろな考え方、答え方があるものなどについて、自分の考えを明確にして書く問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題等を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

## 小学校第3～6学年

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

### 出題の趣旨

本問題は、穂先の向きに注意して書くことができるかどうか（3年）、文字の組立て方を理解して書くことができるかどうか（4年）、用紙全体との関係に注意して書くことができるかどうか（5・6年）をみる問題である。それぞれの学年で、毛筆で文字を書く際に気を付けさせたいことを取り上げている。

### 特徴的な問題

問題	3年生…大問	2
	4年生…大問	2
	5年生…大問	2
	6年生…大問	2

### 各学年の問題

<5・6年生>

<4年生>

<3年生>

〇〇さんは、書写の時間に一まい目として（ア）を書きました。それを見直して、授業の最後には（イ）の作品を仕上げました。（ア）とくらべて、（イ）はどのような点がよりよくなりましたか。もっともふさわしいものを、次の1～3の中から一つえらび、その番号を答えましょう。

### 指導のポイント

#### 自分の書いた文字を見直しながら書く

文字の大きさや配列に注意して、文字を正しく整え、毛筆で書く能力を身に付けることは、日常生活における硬筆による書写の能力を高める基礎となる。例えば、「文字の大きさ」については、中学年で、漢字は仮名より大きく書くといった文字相互の相対的な大きさの関係であったのに対し、高学年では、主に用紙全体との関係から判断される文字の大きさに重点を置いている。

具体的には、本問のように、児童が学習課題に即して自分の書いた文字を見直し、どのような点に気を付けて書き直すとよいかを考え、互いに助言し合うなどの活動を設定し、児童にとって課題解決の過程となるように指導することが考えられる。

また、毛筆を使って学習したことを生かして、鉛筆やペンを使って書くなど、毛筆指導と硬筆指導を関連させる学習の充実を図り、毛筆で学習したことを日常生活で生かすことを意識できるようにすることが大切である。

#### 日常生活の中で、文字の大きさや配列に注意して書く場面を設定する

生活や学習活動の文字を書く様々な場面において、目的に応じ、文字の大きさや配列に注意して書くことができるように指導することが大切である。具体的には、次のような場面が考えられる。

- ・ポスターや新聞、パンフレット、リーフレットなどのタイトルを書く。
- ・「今年目標」「活動のめあて」などを書く。
- ・児童集会等で全学年で歌う歌の歌詞等を書く。
- ・案内状や礼状などを出すために、封筒やはがきに宛て名や住所などを書く。

（参照）

- ・国立教育政策研究所「平成28年度 全国学力・学習状況調査 報告書 小学校 国語」

# 小学校第5学年 「書くこと」

## 特徴的な問題

問題 大問 4-1

## 出題の趣旨

本問題は、目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして、詳しく書くことができるかどうかをみる問題である。ここでは、お世話になった人に感謝の思いを伝えるために、何を取り上げて書くのがよいのか考える力が求められる。

## 指導のポイント

### 実用的な文章としての手紙を書く

実生活においては、依頼状や案内状、礼状などの実用的な文章としての手紙を書くことが求められる。その際、目的や意図を明確にして、書く事柄を選び、書きたいことの中心が伝わるように詳しく書いたり簡単に書いたりすることができるように指導することが大切である。また、書いた手紙を互いに読み合い、伝えたいことが適切に相手に伝わるかどうかを考えることができるように指導することも大切である。

### 指導事例「離任式に来るお世話になった先生たちにお礼の手紙を書こう」

(事前に…) これまでにお世話になった先生たちとの思い出を出し合い、児童自らが「お礼の手紙を書きたい」と思うように、相手に対する感謝の気持ちを高めておく。

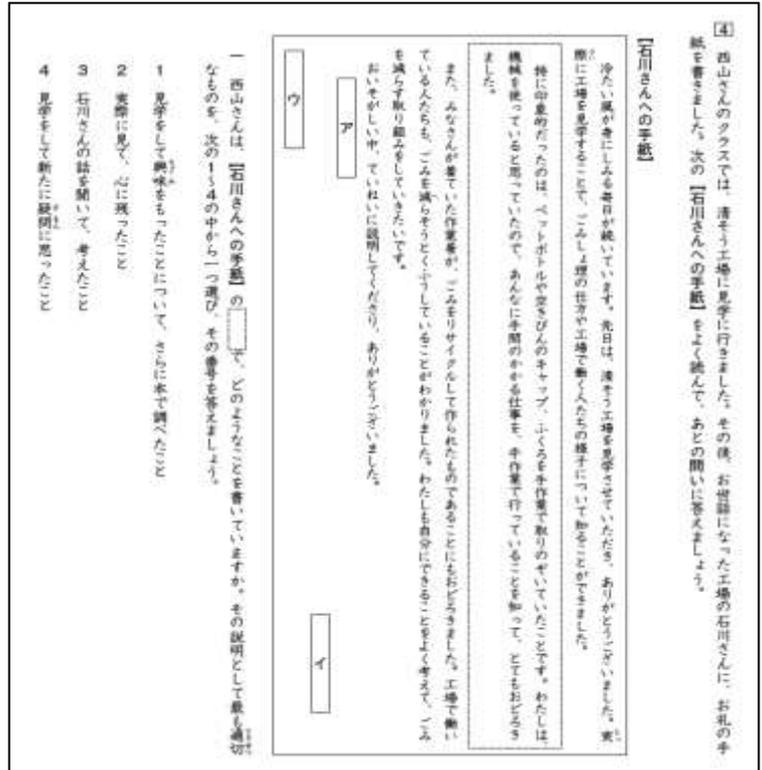
#### <単元計画(例)>

本問題を活用し、手紙の構成と本文に書かれている内容を確認する。

伝えたいことの中心を確認し、相手にお礼の気持ちが伝わるように「本文」に書く内容を考える。

お礼の手紙を書き、友達と読み合って構成や内容について助言し合う。

**ポイント** 手紙の構成や内容を吟味したり、形式を整えたりすることが、相手に対する感謝の思いや敬意を表すことにつながるということを指導することが重要である。



「本文」に書く内容としては、次のようなものが考えられる。

- 先生が話してくれたことの中で一番心に残っていること
- 先生の授業を受けて、分かったりできるようになったりしたこと
- 先生から教えてもらったことを生かし、今年度頑張ろうと思っていること

**ポイント**

前文 春の日ざしが心地よい季節となりました。これまで、私たちにたくさんのお話を教えてくださり、ありがとうございました。

本文

お忙しい毎日だと思いますが、お体に気をつけてお過ごしください。

後付け ○月○日

様 さいたま 太郎

手紙を書く活動を国語科のみならず、国語科との関連を図りながら、各教科等に意図的、計画的に設定することが重要である。例えば、総合的な学習の時間や社会科において、体験学習の指導を依頼する手紙や、運動会などの学校行事に案内をする手紙、社会科見学等でお世話になったことへのお礼の手紙などを書くことが考えられる。

(参照)

- ・国立教育政策研究所「平成29年度 全国学力・学習状況調査 報告書 小学校 国語」
- ・国立教育政策研究所「平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例 小学校」

# 小学校第5学年 「読むこと」

## 特徴的な問題

問題 大問 6-1

## 出題の趣旨

本問題は、目的に応じて、複数の本や文章を選んで読むことができるかどうかをみる問題である。ここでは、読む目的をもち、その目的に応じて、自分にとって必要な情報を明らかにし、複数の本や文章を読む力が求められる。

## 指導のポイント

### 目的に応じて、複数の本や文章を比べ、自分の考えを明確にしながらか読む

楽しむために読む、調べるために読む、知的探求心を満たすために読むなど、読む目的は様々である。そのため、目的に応じて、複数の本や文章などについて、様々な読み方で読むことができるようにすることが必要である。このことは、国語科の学習のみならず、各教科等の学習や日常生活においても重要である。

### 指導事例「興味のある職業について調べ、リーフレットで紹介しよう」

#### 第一次

- 将来なりたい職業や職業に関する新聞記事の紹介、学校図書館担当職員等によるブックトークを聞き、職業について関心を高める。
- 自分が選んだ職業について、調べたこととそこから考えたことをリーフレットにまとめ、紹介するための学習計画を立てる。

#### 第二次

- 本問の【資料1】と【資料2】を読み、ケーキ職人の仕事について調べ、特に心に残ったことを中心に自分の考えをまとめる。
- ケーキ職人の仕事について調べたこととそこから考えたことを必要に応じて交流する。

#### 第三次

- 第二次の学習を生かし、自分が選んだ職業について、自分が探した本などから必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を関連付けたりして、調べたこととそこから考えたことをリーフレットにまとめる。
- リーフレットを基に、学級で紹介し合い、互いに感想を伝え合う。

【資料2】 ケーキ職人について書かれた本のインタビューのページ

【資料1】

【ケーキ職人の仕事】

＜ケーキ職人の一日＞

6:00 ケーキの生地を焼く。

8:00 焼いた生地をオーブンで冷ます。

9:00 ケーキをならべ、飾りをつける。

9:30 発送する。

13:00 次の日のケーキの生地を作る。

18:00 冷たいケーキを焼く。

19:00 帰る。

【ケーキ職人への道】

① 中学校

② 高等学校

③ 大学・短期大学

④ 専門学校

⑤ 勤労として修行

⑥ ケーキ職人

#### ケーキ職人について書かれた本を選んで比べて読み、必要な情報を付箋紙にまとめる

本や文章を読む際は、自分にとって必要な情報の中心となる話に着目させ、目次や索引、見出しなどを手がかりにしながら情報を検索できるように指導する。例えば、「仕事内容」→「どんな仕事」、「～になるには」→「～への道」など、別の言葉に置き換えて、必要な情報を探することができるようにする。

#### 特に心に残ったことを中心に、付箋紙にまとめたことや本を読み返し、自分の考えをまとめる

るなやケ卒れくなるケ  
人どし業一業どさん方職  
が多修ス屋して学あるは  
い業ラさんからをけた  
すン

ある。の開客保おだケ  
ったの関様つ店だけキ  
仕事発発のの清でキを  
も事など新の好こと作  
と品をみやおに、る

ケーキ職人になるには、自分の思うとおりのケーキを作るだけでなく、お客様の立場に立って仕事をするのが大切だと思った。それから、ケーキ職人になるためには、いろいろな方法があることが分かり、ケーキ職人になる道は一つではないことに気付いた。

### (参考)

- ・国立教育政策研究所「平成28年度 全国学力・学習状況調査 報告書 小学校 国語」
- ・国立教育政策研究所「平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例 小学校」



IV 小学校第6学年

1 調査問題【出題の趣旨】

① 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	一	漢字	本問題は、当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかをみる問題である。そのために、手紙や見学のまとめといった日常で使われる場面を設定し、その中で漢字を適切に選ぶことができるかを問う問題構成とした。
	二	主語と述語	本問題は、文の中の主語と述語の関係を理解しているかどうかをみる問題である。主語と述語は、文の骨格をなし、明瞭な文を書く最も基礎的な事項であることから、平成30年度同様、今年度も出題した。なお、類似の問題を小3～小6で出題している。
	三	敬語	本問題は、相手や場面に応じて適切に敬語を使うことができるかどうかをみる問題である。ここでは、相手と自分との関係やその場の状況を意識して適切に敬語を使う力が求められる。
質に関する事項 文化と国語の特質に関する事項	② 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	用紙全体との関係に注意して書く	本問題は、用紙全体との関係に注意して書くことができるかどうかをみる問題である。ここでは、毛筆で文字を書く際に気を付けさせたい点として、筆圧の変化、文字の中心、用紙全体との関係を取り上げている。
	③ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語辞典を使って調べる	本問題は、表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べることができるかどうかをみる問題である。ここでは、国語辞典に示されたそれぞれの意味と例文とを関係付けた上で、文脈に適した意味を適切に捉える力が求められる。
④ 書くこと		物語を書く	本問題は、自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えることができるかどうかをみる問題である。ここでは、読者に期待をもって読み進めてもらえるような展開にするために、構成を工夫して書く力が求められる。
⑤ 書くこと		「読書をするきっかけ」について報告文を書く	本問題は、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べることができるかどうかをみる問題である。ここでは、何のために書くのか、読み手はどのような内容を知りたいのかなど、文章を書く相手や目的を念頭に置きながら、必要な情報を正しく読む力が求められる。
⑥ 読むこと	一	環境問題について疑問に思ったことを調べる	本問題は、目的に応じて、文章の内容を押さえながら要旨を捉えることができるかどうかを見る問題である。ここでは、何のために、どのようなことが必要かなどを明確にした上で、文章の重要な点を表現に即して的確に押さえ、求められている分量や表現の仕方などにまとめる力が求められる。
	二		本問題は、目的に応じて、中心となる語や文を捉えることができるかどうかをみる問題である。ここでは、目的に応じて文章全体におけるそれぞれの段落の役割を押さえながら読む力が求められる。
・聞くこと	⑦ 話すこと	考えたことをノートにまとめる	本問題は、図の内容を的確に読むことができるかどうかをみる問題である。ここでは、掲示全体を概観し、表現方法、文字や絵との関係、文字の大きさや配置などに注意しながら、書かれている内容を読む力が求められる。
・聞くこと	⑧ 話すこと	「遊び」についてスピーチする	本問題は、相手や目的に応じて、自分の考えが明確に伝わるように内容を選んで話すことができるかどうかをみる問題である。ここでは、多くの人が薦める遊びをしたいという気持ちになるように、内容を選んで話す力が求められる。
⑨ 話すこと・聞くこと	一	「ロボットに期待すること」について発表する	本問題は、話し手の意図を捉えながら聞くことができるかどうかをみる問題である。ここでは、話の目的は何か、自分に伝えたいことは何か、共に考えたいことは何かなどを踏まえて、話の内容を十分に聞き取る力が求められる。
	二		本問題は、話の内容が明確になるように、話の構成を考えることができるかどうかをみる問題である。ここでは、伝えたいことを明確にし、それを分かりやすく伝えるために、聞き手の反応から、話の受け止め方や理解の状況を捉え、それを踏まえながら話す力が求められる。

## 2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題		学習指導要領の領域等				評価の観点					問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題		
		基礎問題	活用問題	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	語の伝統的な性質に関する文化事項	態度	国語への関心・意欲・	話す・聞く能力	書く能力	読む能力		言語・技能についての知識・	正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名【学年】	正答率(%)	出題学年	正答率(%)
1ーア	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(授)	○					○						○	選	90.5	0.1				
1ーイ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(板)	○					○						○	選	98.1	0.1				
1ーウ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(積)	○					○						○	選	47.1	0.2				
1ーエ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(標)	○					○						○	選	50.9	0.3				
1ーオ	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(会)	○					○						○	選	51.0	0.9				
1ニア	文の中の主語と述語の関係を理解している。	○					○						○	選	82.5	0.2	H30市【6年】	88.4	小5	74.0
1ニイ	文の中の主語と述語の関係を理解している。	○					○						○	選	64.8	0.3	H30市【6年】	61.5	小5	57.4
1三	相手や場面に応じて、適切に敬語を使うことができる。	○					○						○	選	67.8	0.4	H30全国	60.3	小5	51.1
2	用紙全体との関係に注意して書くことができる。	○					○						○	選	92.3	0.1	H28市【6年】	85.0		
3	表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べることができる。	○					○						○	選	75.2	0.1	H20全国	59.3		
4	自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えることができる。	○			○									選	84.1	0.2				
5	相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べることができる。	○			○			○		○				記	50.3	1.0	H28市【5年】	55.6		
6一	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉えることができる。		○			○			○					記	29.5	3.5				
6二	目的に応じて、中心となる語や文を捉えることができる。		○			○			○					選	77.0	1.0				
7	図の内容を的確に読むことができる。	○					○						○	選	93.2	0.5	H28市【5年】	89.6		
8	相手や目的に応じて、自分の考えが明確に伝わるように内容を選んで話すことができる。	○		○						○				選	93.8	0.7				
9一	話し手の意図を捉えながら聞くことができる。		○	○				○	○					選	84.1	1.1			小5	79.7
9二	話の内容が明確になるように、話の構成を考えることができる。		○	○				○	○					選	84.0	1.7			小5	81.4

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には◎を付けている）。

調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査 「全国」：全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「記述式」とは、いくつかの選択肢やいろいろな考え方、答え方があるものなどについて、自分の考えを明確にして書く問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

# 小学校第6学年 「書くこと」

## 特徴的な問題

問題 大問 4

## 出題の趣旨

本問題は、自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えることができるかどうかをみる問題である。ここでは、読者に期待をもって読み進めてもらえるような展開にするために、構成を工夫して書く力が求められる。

## 指導のポイント

### 「読むこと」の授業で物語の構成について学ぶ

物語の文章全体の構成としては、例えば「状況設定・発端・事件展開・山場・結末」がある。

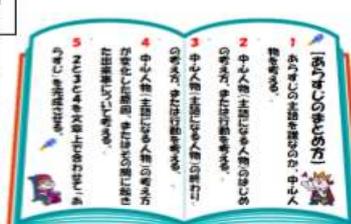
それぞれの内容としてどのようなことを書けばよいかを考える力を付けていくためには、「読むことの指導事項 〇精査・解釈（文学的な文章）」の授業と関連させた指導をすることが重要である。

〔思考力、判断力、表現力等〕(C)読むこと 〇精査・解釈（文学的な文章）

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。	エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。	エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

### ＜文章全体の構成の効果を考えるためのワークシート＞

3 終わりの考え方 終わりの行動	4 変化した原因 起きた出来事	2 はじめの考え方 はじめの行動
48字	48字	48字



1 あらすじのあらまじり  
2 中心人物の登場  
3 中心人物の行動  
4 中心人物の感情  
5 中心人物の行動

200  
字であらすじをまとめてみよう（名前）

あらすじを書く本の題名

中心人物  
中心人物（ ）

本の作者  
本の作者（ ）

④ 青木さんは、友情の大切さを伝えるために、「二人で宝物を探そう」という物語を書こうとしました。次の「物語の構成」をもと読んで、青木さんの構成のくふうとして最も適切なものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えましょう。

物語の構成	始まり	展開	結末
	二人がいつものように公園で遊んでいると、宝の地図を見つけた。	①宝が山の頂上にあることがわかり、二人で協力して進み、宝箱を見つけました。 ②大きな川や危険な道があったが、二人で協力して進み、宝箱を見つけました。 ③宝箱の中に一つだけ入っていた宝石をどちらが取るかでけんかになりました。 ④宝箱を取り合い、けんかをしていた宝石をどちが取りかえになり、仲直りしました。	宝石のようにかがやく笑顔で、二人がいつもの公園で遊んでいる。

1 登場人物の心情や考え方が変わる出来事を展開の後半に入れ、伝えたいことが明確に伝わるようにしている。  
2 物語を結末の場面から書き、読者が興味をもつて読めるようにしている。  
3 現在と過去を行き来して書き、読者に出来事の手がかりがわすれずつわがるようにしている。  
4 時間の流れとは反対の順序で書き、読者に出来事の手がかりがわかるようにしている。

(参照)

・文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」

# 小学校第6学年 「読むこと」

## 特徴的な問題

問題 大問 7

## 出題の趣旨

本問題は、図の内容を的確に読むことができるかどうかをみる問題である。ここでは、掲示全体を概観し、表現方法、文字や絵との関係、文字の大きさや配置などに注意しながら、書かれている内容を読む力が求められる。

## 指導のポイント

### 目的や意図に応じて資料を読む力を高める

パンフレット、ポスター、書籍、新聞記事、様々な図表等、私たちの身の回りには情報が溢れ、接する機会が多い。それらの資料から、自分の意図に応じて情報を読み取る力は、生活をしていく上で欠かせないものである。そこで、生活場面に即した学習を展開し、様々な資料に繰り返し触れる機会を設定し、目的や意図に応じて資料を読む力を身に付けさせることが大切である。

さいたま小学校  
Saitama E. Sch  
640m

避難所  
Evacuation Shelter  
避難所

緊急避難場所  
Emergency Evacuation Site  
緊急避難場所

【野村さんのノートの一部】

○緊急時に避難する場所を知らせるために書かれている。  
○特に大切な情報がわかるように、大きく示している。  
○様々な人が読むことができるように、外国語を使った  
り、ふりがなをふたつしている。

1 一目でわかるように、絵や記号を使って示している。  
2 見る人が楽しめるようなおすすめの情報を書いてある。  
3 くわしくわかるように、全ての言葉に説明が書いてある。

【通学路で見つけた掲示】

野村さんは、「通学路で見つけた掲示」を見て、考えたことをノートにまとめました。「野村さんのノートの一部」の中に入る内容として適切なものを、あとの1～3の中から一つ選び、その番号を答えましょう。

### 指導事例 「修学旅行に向けて日光東照宮の魅力を紹介しよう」

(「読むこと」と「書くこと」の複合単元)

① 活動の目的について確認する。

- ・目的：日光東照宮の歴史や見どころについて友達に紹介する。

② パンフレットや書籍、雑誌記事等から必要な情報を読む（目的や意図に応じた視点で）。目的や意図に応じて、必要な情報を丸で囲んだり色を付けたりしてから矢印等でつなげてまとめたり、必要な情報を付箋紙に書いたりして、整理する。

- ・日光東照宮の歴史 ・友達が興味をもちそうな建物やエピソード

③ 読み取った複数の情報を比較、分析し、統合する。

④ 与えられた条件（字数など）に合わせて、記述する。

日光東照宮は江戸時代に建てられました。東照宮での見どころは三猿の彫刻です。実はこれには深い意味があるのです。それは・・・



⑤ まとめたものを読み合う。

(参照)

- ・国立教育政策研究所「平成24年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例 小学校」
- ・国立教育政策研究所「平成25年度 全国学力・学習状況調査 報告書 小学校 国語」
- ・さいたま市教育委員会「平成28年度 さいたま市学習状況調査 解説資料 国語」

# 小学校第6学年 「読むこと」

## 特徴的な問題

問題 大問 6-1

## 出題の趣旨

本問題は、目的に応じて、文章の内容を押さえながら要旨を捉えることができるかどうかをみる問題である。ここでは、何のために、どのようなことが必要かなどを明確にした上で、文章の重要な点を表現に即して的確に押さえ、求められている分量や表現の仕方などにまとめる力が求められる。

## 指導のポイント

### 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく

目的に応じて、文章の内容を的確に押さえるためには、何のために、何を知りたいのか、どのような情報が必要なのかなどを明確にした上で、文章に書かれている話題、筆者の考えとその理由や事例となっている内容、構成の仕方などに注意しながら、表現に即して重要な点を的確に押さえて読むことが大切である。その際、目的がはっきりしないまま段落に見出しを付けながら読んだり、一文ごとに書かれている話題、理由や事例などを読んだりするのではなく、目的に照らし、自分にとって必要な内容であるかどうかを、文章全体から大まかにつかんで読むことも大切である。ここでは、本問題を例に、目的に応じて文章の内容を的確に押さえて読む学習活動の例を以下に示す。

### 指導事例「目的を明確にし、必要な情報を明らかにしよう」

#### ■何のために 「減少するこん虫」についての疑問を解決する

#### ■何を知りたいのか

##### 疑問に思ったこと

① どうして、こん虫の数は減ってしまったのか。

##### 疑問に思ったこと

② 国や市町村は、食い止めるためにどのような取組をしているのか。

#### ■子どもたちの話合い



栄養価が高いというのは「食料としてのこん虫」のところに書いてあるから取組ではないと思う。「残されたこん虫の生息地を守る活動が行われています」は、②の疑問の解決につながると思う。

「私たち一人ひとりも自然体験をしながらこん虫について学ぶなど、自分にできることを見つけ取り組んでいくことが今後ますます重要になってきます」も②の疑問の解決につながると思う。



②の疑問は、国や市町村の取組だから、個人的な取組では、だめだと思う。

(参考)

・ 国立教育政策研究所「平成31年度 全国学力・学習状況調査 報告書 小学校 国語」

【図】 前田さんの字組では、かん字問題について疑問に思ったことを調べ、友達としゃべりかいた合コンにしました。次は、前田さんの「アートの一部」と前田さんが選んだ「賞」です。これらをもよく読んで、あとの問いに答えましょう。

アートの一部

減少するこん虫について  
調べようと思つたことが

「こん虫が減少している」というニュースを見てびっくりした。理科の学習で、食物連鎖では、それぞれの生き物ががいにかけあっているから、ある一種類の生き物が減ったり増えたりするだけで、自然のバランスがくずれてしまうことを勉強した。

疑問に思つたこと

① どうして、こん虫の数は減ってしまったのか。  
② 国や市町村は、食い止めるためにどのような取組をしているのか。

調べてわかつたこと

① こん虫が減ってしまった理由は、  
ア  
イ

② 国や市町村は、食い止めるために、

「アートの一部」の「ア」には、疑問に思つたことの①の答えになる内容が入ります。あとの「条件」に合せて書きましょう。

【条件】  
○「賞」から言葉や文を取上げて書くこと。  
○二十五文字以上、五十文字以内でまとめて書くこと。

# 小学校第5・6学年 「話すこと・聞くこと」

## 特徴的な問題

問題 5年生…大問 8  
6年生…大問 9—

## 出題の趣旨

本問題は、話し手の意図を捉えながら聞くことができるかどうかをみる問題である。ここでは、話の目的は何か、自分に伝えたいことは何か、共に考えたいことは何かなどを踏まえて、話の内容を十分に聞き取る力が求められる。

## 指導のポイント

### 意図を明確にして質問するために、ポイントシートを活用する

自分が聞きたいことを中心に明確にして聞くためには、どのような目的で聞くのか、自分が聞いたことは何かなどをよく確かめて聞くことが重要である。観点別に冒頭の言葉を例示し、繰り返し使っていくと、意図を明確にした質問ができるようになる。また、相手の考えを聞く際には、自分の考えとの共通点や相違点、関連して考えたことを整理しながら聞くことを指導することが大切である。

自分の経験や意見とを比較した質問のとき…

私の経験だと…

私は、〇〇だと考えますが…

言葉の意味や定義を確認する質問のとき…

それは、どのような…

話の内容を確認する質問

自分の理解度を確認する質問のとき…

つまり…

話し手の意図や結論を確認する質問のとき…

つまり…

抽象的な表現を具体化する質問のとき…

例えば…

根拠となる情報源や活用した資料を確認する質問のとき…

どのように…

調べた目的、理由、背景を確認する質問のとき…

なぜ…

どこで…

いつ…

相手が繰り返した言葉を用いて詳しく聞く質問

あなたは、どちらが…

相手の考えを引き出す質問

相手の評価、判断を聞く質問

具体的にどういふ…

他には…

(参照)

- さいたま市教育委員会「平成30年度 さいたま市学習状況調査 解説資料 国語」
- 国立教育政策研究所「平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例 小学校」

【発表①～③の場面】

① これから「ロボットに期待すること」について発表します。わたしは、テレビ番組のCMで、そうじをするロボットがあることを知りました。そして、ロボットに興味をもち、働くロボットについて調べました。こちらの資料を見てください。調べてみると、運転手がいなくても走るロボットカーや、野菜を収穫するロボットがあることがわかりました。日本は高れい化社会と言われていて、30年後は、2.5人に一人が高れい者になるそうです。農家は、現在すでに10人に7人が高れい者だそうです。わたしは、農作業や配達をロボットが代わりに行ってくれることを期待します。質問はありますか。その後、感想をお願いします。

② つまり、山川さんの考えは、人の半のようなロボットによって高れい者の農家が助かるということではないですか。

③ たしかに、トラック運転手の祖父が、「年れい的に運転が心配になってきた。」と言っていたので、山川さんの考えに賛成です。

山川さん

南さん

大野さん

④ 山川さんは「ロボットに期待すること」について、資料を作成して発表します。次は、山川さんが発表のために作成した「資料の①」と「発表の手紙」(発表①～③の場面)です。これらを読んで、あとの問いに答えましょう。

①「発表①～③の場面」の①で南さんが質問した理由として最も適切なものを、次のうちから一つ選び、その番号を答えましょう。

- 山川さんの考えの理由を知るため。
- 山川さんの発表の中にあつたわからない言葉を調べるため。
- 山川さんが考えた課題を知るため。
- 山川さんが考えたことを確かめるため。

V 中学校第1学年

1 調査問題【出題の趣旨】

読むこと	①	文学的な文章	本問題は、場面の展開、情景描写、登場人物（主人公）の心情や行動などに注意して読み、内容の理解に役立てることなどを求めている。これまでの市調査【中1】①と同様、基礎問題を中心に出題した。
	②	説明的な文章	本問題は、文脈の中における語句の意味を的確にとらえたり、文章の構成をとらえて内容を正確に理解したり、文章の要点を踏まえて記述したりすることなどを求めている。これまでの市調査【中1】②と同様、基礎問題を中心に出題した。
話すこと・聞くこと	③	相手の反応を踏まえて話すこと	本問題は、日本語について、発表メモや発表原稿をもとにして話す場面を設定した。資料を活用して相手の反応を踏まえて話したり、話の構成を考えて自分の意見を述べたりすることができるかを問うものである。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	④	漢字	本問題は、これまでの市調査や全国調査の正答率が低かったものも参考にしながら、文脈に即して漢字を正しく書くこと、読むことができるかどうかをみるものである。
	⑤	文や文章	本問題は、主述の関係、修飾・被修飾の関係及び接続語を理解しているかを問うものであり、これまでの市調査や全国調査においても課題がみられたため出題した。
		書写	本問題は、漢字の筆順について、字形や筆順の原則が身に付いているかを問うものであり、これまでの市調査においても課題がみられたため出題した。
		伝統的な言語文化	本問題は、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかを問うものである。これまでの市調査と同様、確実に身に付けてほしい基礎問題を出題した。
		語彙	本問題は、慣用句の意味を正しく理解しているかを問うものであり、これまでの市調査や全国調査においても課題がみられたため出題した。
	表現の技法	本問題は、詩の中の表現の技法に気付くことができるかを問うものであり、その意味や用法とともに理解することを求めている。	
読むこと・書くこと	⑥	チャレンジ問題	本問題は、東京オリンピック・パラリンピックにおける意識調査をもとに、日本の伝統文化をアピールするための自分の考えをまとめる問題である。資料は、「日本の伝統文化を伝えるための写真」（資料1）「日本を訪れる前に外国人が期待していたこと」（資料2）である。中学校第1、2学年で共通のテーマに取り組み、日本の伝統文化のアピールポイントについて自分の考えを論理的に書く問題となっている。 なお、複数の資料から適切な情報を得て、根拠を明確にして自分の考えをまとめる同様の問題は平成27年度から継続して出題している。



### 3 特徴的な問題と解説

## 中学校第1学年 読むこと（文学的な文章）

### 【特徴的な問題】

問題 1 佐川 光晴 著『大きくなる日』より

### 出題の趣旨

文学的な文章を読むためには、目的に応じて場面の展開や登場人物の心情や行動、描写などに注意して読み、内容を的確に捉えることが大切である。

本問では、佐川光晴の『大きくなる日』を取り上げた。場面の展開や登場人物の相互関係、心情、場面についての描写に注意して読み、内容の理解に役立てることを求めている。

なお、平成30年度市調査【中1】1と同様、中学校学習指導要領解説「読むこと」の指導事項に沿った基礎問題を中心に選択式・短答式・記述式の形で出題した。

### 指導のポイント

#### 根拠となる描写を明らかにして、文章を解釈する

文学的な文章を読む際には、目的に応じて場面の展開や登場人物の描写に注意して読むように指導することが引き続き大切である。例えば、文章全体から登場人物の言動が分かる描写を見付け、それらを場面の展開に即して整理し、登場人物の相互関係についてまとめるとともに、登場人物の相互関係からそれぞれの人物像や内面にある深い心情を捉えるなどの学習活動が考えられる。その際、複数の場面や描写を結び付けて文章を解釈し、他の人の解釈と比較するように指導することも有効である。また、文章の理解をより深めるために、考えの根拠となった描写を具体的に示すように指導することが重要である。

指導に当たっては、平成24年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B3に係る授業アイデア例「プロの朗読を参考に、『走れメロス』の一場面を工夫して朗読する」、平成29年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B1に係る授業アイデア例「読んだ本の魅力を紹介する」、「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】」国語一3「『蜘蛛の糸』を朗読しよう」も参考になる。



### 学習活動例

#### 文学的な文章を読み、心情を表す語句を見付けて伝え合う

「文章を読み、心情を表す語句を見付けて伝え合う」ための学習の見通しをもつ。

文章の内容を把握し、描写を基に、登場人物の心情を表す語句とその心情について各自で考えてワークシートに書く。

(第1時)

第1時に記入したワークシートを用いて、登場人物の描写に基づく心情の変化についてグループで交流し、グループごとにまとめる。

(第2時)

第2時でまとめた内容をグループごとに発表し合い、心情を表す表現の方法や効果について検討する。心情を表す表現について学習したことを振り返り、まとめる。

(第3～4時)

(参照)

・国立教育政策研究所「平成30年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 国語」p.32-36

## 中学校第1学年 読むこと(説明的な文章)

### 【特徴的な問題】

問題 2 「新・睡眠の教科書」(『Newton 2019 8月』)より

### 出題の趣旨

説明的な文章を読むためには、段落ごとの内容を捉えたり、段落相互の関係を正しく押さえたりしながら、文章の構成や展開に即して情報を整理し、内容を捉えることが大切である。

本問では、睡眠の科学的なメカニズムなどを紹介する説明的な文章を取り上げた。文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすることや、文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解することを求めている。

なお、平成30年度市調査【中1】2と同様、中学校学習指導要領解説「読むこと」の指導事項に沿った基礎問題を中心に選択式・短答式・記述式の形で出題した。



### 指導のポイント

#### 文章の展開に即して情報を整理し、内容を的確に理解する

説明、解説、論説などの説明的な文章を読む際には、文章の構成や展開を捉え、内容を的確に理解するように指導することが大切である。その際、生徒自身が目的意識をもって文章を読み、必要な情報を整理することができるように指導を工夫することが重要である。

例えば、目的をもって文章を読み、必要な情報を過不足なく取り出すことができているかということに加え、どのようにすればその情報にたどり着くことができるのかについて検討するなどの学習活動が考えられる。その際、小学校での学習を踏まえ、目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考えて読むように指導することも大切である。

指導に当たっては、平成23年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B2に係る授業アイデア例「文章の内容を『Q&A集』の形式で紹介する」、平成24年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A6に係る授業アイデア例「文章の展開に即して内容を捉えることができるようにする」、平成30年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B1に係る授業アイデア例「目的に応じて説明的な文章を読む」も参考になる。

### 学習活動例

#### 説明文を読んで理解したことを文章にまとめる

「説明文を読んで理解したことを文章にまとめる」ための学習の見通しをもつ。

文章を読み、書かれている内容を確認し、文章全体の構成を把握する。

(第1時)

第1時に確認した構成をもとに内容を要約し、相手意識をもってその内容を伝える文章を作成する。

書いた文章を互いに読み合い、必要な情報を取り出せているか検討する。

(第2時)

第2時の学習を踏まえ、各自で興味のあるテーマについて、同様の文章を作成する。

(第3時)

第3時に作成した文章を相互に評価し合い、学習したことを振り返る。

(第4時)

(参照)

・国立教育政策研究所「平成31年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 国語」p.20-25

## 中学校第1学年 話すこと・聞くこと

### 【特徴的な問題】

問題 ③ 日本語についてのスピーチをする

### 出題の趣旨

伝えたいことを聞き手に分かりやすく伝えるためには、表現を工夫したり、相手の反応を踏まえながら話したりすることが大切である。

本問では、「国語の授業で『日本語についてのスピーチ』をする」という場面を設定した。目的や意図に応じて、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などについての知識を生かし、相手の反応を踏まえながら話したり、収集した知識や情報を関係付けたり、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話したりすることを求めている。

なお、平成30年度市調査【中1】③と同様、中学校学習指導要領解説「話すこと・聞くこと」の指導事項に沿った基礎問題を中心に選択式・記述式の形で出題した。

### 指導のポイント

#### 目的に応じて話の構成を工夫し、聞き手の反応を踏まえながら話す

説明や発表などをする際には、話の全体として伝えたいことを明確にし、それを分かりやすく伝えるために各部分をどのように組み立てるかを考えるように指導することが大切である。また、聞き手の反応から、話の受け止め方や理解の状況を捉え、それらを踏まえながら話すように指導することも重要である。

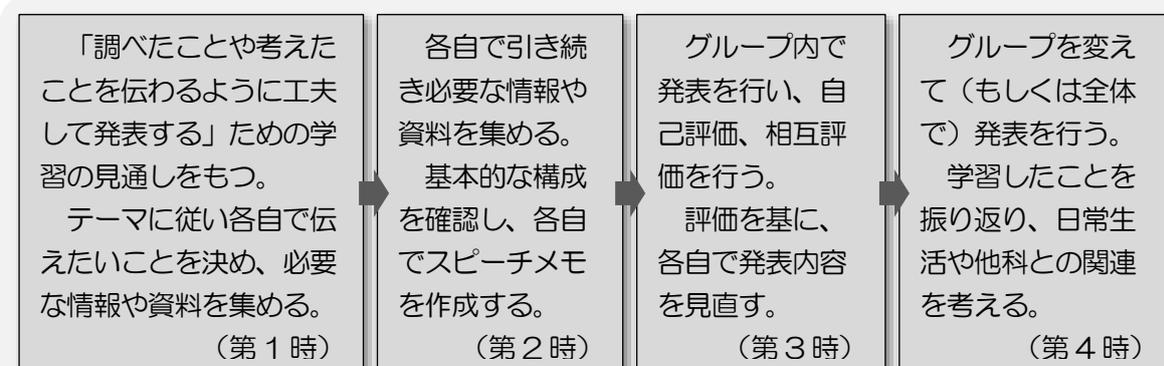
例えば、話し手と聞き手だけでなく、その場の様子を観察する立場を設け、発表の進め方等についてそれぞれの立場から検討するなどの学習活動が考えられる。

指導に当たっては、平成27年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B1に係る授業アイデア例「テーマを決めて、プレゼンテーション対決をしよう」、平成30年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B2に係る授業アイデア例「テーマに沿って、調べたことや考えたことを発表しよう」、「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】」国語一「『体験入部』の報告をしよう」も参考になる。



### 学習活動例

#### テーマに沿って、調べたことや考えたことを発表する



(参照)

- ・国立教育政策研究所「平成30年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 国語」p.73-77
- ・国立教育政策研究所「平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例 中学校」P.5～P.6

## 中学校第1学年 書くこと

### 【特徴的な問題】

問題 6 複数の資料を用いて自分の考えを書く

### 出題の趣旨

文章を書く際には、自分の考えが読み手に分かりやすく伝わるように考えの根拠を明確にして書く必要がある。

本問は、「東京オリンピック・パラリンピックで『どんな日本の伝統文化をアピールしたらよいか』を考え、複数の資料（写真と調査結果）から必要な情報を読み取り、自分の意見を述べる」という場面を設定した。考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理し、引用したり、図表などを用いたりして、根拠を明確にして自分の考えをまとめることを求めている。

なお、本市では平成27年度よりチャレンジ問題として「書くこと」に関する問題を出題している。また全国学力・学習状況調査においても、「文章などから目的に応じて必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くこと」を求める「書くこと」に関する内容が出題されている。

### 指導のポイント

#### 自分の考えが、読み手に分かりやすく伝わるように書く

説得力のある文章にするためには、自分の考えを支える根拠を明確にして書くように指導することが大切である。その際、自分の考えを支える根拠として、複数の事例や専門的な立場からの知見などを示すように指導することも重要である。

例えば、課題に沿って文章や図表などから必要な情報を根拠として取り出して、自分の考えを書くなどの学習活動が考えられる。その際、取り出した情報が、自分の伝えたいことの根拠としてふさわしいかどうかを検討するとともに、読み手に分かりやすく伝わるように、必要に応じて取り出した情報について自分なりの考えを加えるように指導することが大切である。

指導に当たっては、平成28年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A4に係る授業アイデア例「要望する文章を書こう」、平成31年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語3に係る授業アイデア例「読み手を意識しながら、意見文を書く」、「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】」国語12「高等学校のパンフレットを批評する文章を書こう」も参考になる。



### 学習活動例

#### 資料から情報を得て自分の考えを書く

「資料から情報を得て自分の考えを書く」ための学習の見通しをもつ。  
テーマに沿って各自で書きたいことを決め、根拠となる資料を集める。  
(第1時)

自分の考えを、根拠を明確にしてワークシートにまとめる。  
(第2時)

グループ内でワークシートを読み合い、根拠の適切さを相互に評価し、助言し合う。  
評価を基に、各自で必要に応じて書き直す。  
(第3時)

各自で意見文を完成させる。  
相互に読み合い、学習したことを振り返る。  
(第4～5時)

(参照)

・国立教育政策研究所「平成31年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 国語」p.42-48

## 1 調査問題【出題の趣旨】

読むこと	①	文学的な文章	本問題は、登場人物の言動の意味、心情の変化、叙述に沿った内容の理解を読み取ることを求めている。 これまでの市調査【中2】①と同様、基礎問題を中心に出題した。
	②	説明的な文章	本問題は、文章を読んで理解したことを与えられた選択肢と結び付け、自分の考えを広げることなどを求めている。 これまでの市調査【中2】②と同様、基礎問題を中心に出題した。
話すこと・聞くこと	③	相手の反応を踏まえて話すこと	本問題は、今年度最後の生徒会新聞の内容について話し合っている場面を設定した。話し手の考えと自分の考えを比較しながら聞くとともに、話合いの話題や展開を捉えたり、参加者の発言を結び付けて考えをまとめたりすることを求めている。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	④	漢字	本問題は、これまでの市調査や全国調査の正答率が低かったものも参考にしながら、文脈に即して漢字を正しく書くこと、読むことができるかどうかをみるものである。
	⑤	文や文章	本問題は、主述の関係や接続語を理解しているかを問うものであり、これまでの市調査や全国調査においても課題がみられたため出題した。
		書写	本問題は、漢字の行書の基礎的な書き方の特徴を理解することができるかを問うものである。
		伝統的な言語文化	本問題は、『伊曾保物語』を取り上げ、現代語訳を手掛かりに作品を読むことや、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかを問うものである。
		語彙	本問題は、故事成語の意味や文章の中でどのように使用されているかを正しく理解しているかを問うものである。
表現の技法	本問題は、詩の中の表現の技法を理解することができるかを問うものであり、その意味や用法とともに理解することを求めている。		
読むこと・書くこと	⑥	チャレンジ問題	本問題は、東京オリンピック・パラリンピックにおける意識調査をもとに、日本の伝統文化をアピールするための自分の考えをまとめる問題である。資料は、「東京オリンピック・パラリンピックでアピールすべきこと」（資料1）、「日本の伝統文化を伝えるための写真」（資料2）「日本を訪れる前に外国人が期待していたこと」（資料3）である。中学校第1、2学年で共通のテーマに取り組み、日本の伝統文化のアピールポイントについて自分の考えを論理的に書く問題となっている。 なお、複数の資料から適切な情報を得て、根拠を明確にして自分の考えをまとめる同様の問題は平成27年度から継続して出題している。

## 2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題			学習指導要領の領域等				評価の観点					問題形式		市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		基礎問題	活用問題	チャレンジ問題	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	特伝質統に関する語事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択記	択記	正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名【学年】	正答率(%)	出題学年	正答率(%)
1-1	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、描写の効果や登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立っているかどうかをみる。	○				○					○		選		91.1	0.2					
1-2	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、描写の効果や登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立っているかどうかをみる。	○				○					○		短		90.3	4.6					
1-3	文脈の中における心情を表す語句などに注意して読むことができるかどうかをみる。	○					○				○		選		55.6	0.5					
1-4	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、描写の効果や登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立っているかどうかをみる。		○				○				○		記		63.1	5.3					
2-1	文章全体と部分との関係を考え、内容の理解に役立っているかどうかをみる。	○					○				○		選		87.5	0.4	H30市【中1】 H29市【中2】 H28市【中2】	80.5 70.2 27.6			
2-2	文章全体と部分との関係、例示の効果などを考え、内容の理解に役立っているかどうかをみる。	○					○				○		選		72.5	0.6					
2-3	文章全体と部分との関係などを考え、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりしているかどうかをみる。		○				○				○		記		6.5	9.6					
2-4	文章に表れているものの方見方や考え方をとらえ、自分のものの方見方や考え方を広げているかどうかをみる。		○				○				○		選		84.8	1.1					
3-1	話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えとの共通点や相違点を整理し、比較しているかどうかをみる。	○			○						○		選		87.1	0.9					
3-2	話合いの話題や方向をとらえて、相手の考えを尊重し、発言を検討して自分の考えをまとめているかどうかをみる。		○		○						○		記		41.6	9.3					
3-3	相手の立場や考えを尊重し、互いの発言を検討して自分の考えを広げているかどうかをみる。	○			○						○		選		90.0	3.5	H30市【中2】	83.4			
4-1	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。(備えて)	○					○				○		短		70.9	14.6	H30市【中2】	66.8			
4-2	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。(預ける)	○					○				○		短		44.1	26.2					
4-3	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。(賛成)	○					○				○		短		71.3	12.2					
4-4	文脈に即して漢字を正しく読むことができるかどうかをみる。(触れて)	○					○				○		短		97.6	1.7	H29市【中2】 H28市【中1】	66.8 51.9			
4-5	文脈に即して漢字を正しく読むことができるかどうかをみる。(快く)	○					○				○		短		82.9	6.5			中1	76.6	
4-6	文脈に即して漢字を正しく読むことができるかどうかをみる。(熟知)	○					○				○		短		88.0	3.6					
5-1	主語と述語の関係について理解しているかどうかをみる。	○					○				○		選		59.6	1.0	H30市【中2】 H29市【中2】 H28市【中2】	32.6 19.4 52.8			
5-2	接続語の働きについて理解しているかどうかをみる。	○					○				○		選		97.9	0.9	H30市【中2】 H29市【中2】 H28市【中2】	68.6 86.5 72.6	中1	94.1	
5-3	行書の基本的な書き方を理解して書くことができるかどうかをみる。	○					○				○		選		93.6	1.4	H30市【中2】 H29市【中2】 H28市【中2】	83.5 84.6 89.0			
5-4(1)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる。	○					○				○		短		74.5	4.8	H30市【中2】 H29市【中2】 H28市【中2】	59.8 83.3 79.5			
5-4(2)	古典の文章と現代語訳とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる。	○					○				○		選		78.2	2.0	H30市【中2】 H29市【中2】 H28市【中2】	56.3 67.6 42.2			
5-5	故事成語の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができるかどうかをみる。	○					○				○		選		45.3	2.2					
5-6	文脈の中における表現の技法やその効果を理解しているかどうかをみる。	○					○				○		選		71.1	2.2			中1	65.0	
6	意見や心情が効果的に伝わるように、材料を集めながら根拠を明確にして自分の考えをまとめているかどうかをみる。			○		○					○		記		28.3	3.9	H28市【中1】	44.0			

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げて(同一問題には◎を付けている)。  
調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査 「全国」：全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「記述式」とは、いくつかの選択肢やいろいろな考え方、答え方があるものなどについて、自分の考えを明確にして書く問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を示す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

### 3 特徴的な問題と解説

## 中学校第2学年 読むこと（文学的な文章）

### 【特徴的な問題】

問題 1 まはら 三桃 著『疾風の女子マネ!』より

### 出題の趣旨

文学的な文章を読むためには、目的に応じて場面の展開や登場人物の心情や言動、描写などに注意して読み、内容を的確に捉えることが大切である。

本問では、まはら三桃の『疾風の女子マネ!』を取り上げた。場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、描写の効果や登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てたり、文脈の中における心情を表す語句などに注意して読んだりすることを求めている。

なお、平成30年度市調査【中2】1と同様、中学校学習指導要領解説「読むこと」の指導事項に沿った基礎問題を中心に選択式・短答式・記述式の形で出題した。

### 指導のポイント

#### 場面の展開や登場人物の描写に注意して読む

文学的な文章を読む際には、目的に応じて、時間的、空間的な場面の展開、登場人物の心情や行動、情景描写などに注意して読み、内容を的確に捉えることができるように指導することが引き続き大切である。

例えば、作品の形態や特徴を生かしながら文学的な文章を朗読するなどの学習活動が考えられる。その際、場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、文章の理解を深めることができるように指導することが重要である。

指導に当たっては、平成24年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B3に係る授業アイデア例「プロの朗読を参考に、『走れメロス』の一場面を工夫して朗読する」、平成29年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B1に係る授業アイデア例「読んだ本の魅力を紹介する」、「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】」国語一3「『蜘蛛の糸』を朗読しよう」も参考になる。



### 学習活動例

#### 文章の表現の工夫を生かして朗読する

「文章の表現の工夫を生かして朗読する」ための学習の見通しをもつ。  
印象的な表現に注目しながら文章を読み、場面の展開を捉えるとともに、特に印象に残った箇所について感じたことや考えたことを書く。  
(第1時)

第1時に記入したワークシートを用いて、印象に残った表現について感じたことや考えたことを交流する。  
交流を踏まえて、朗読の仕方の工夫を考え、練習する。  
(第2時)

互いに朗読を聞き合う。  
表現の工夫について学習したことを振り返り、まとめる。  
(第3時)

(参照)

・国立教育政策研究所「平成30年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 国語」 p.78-83

## 中学校第2学年 読むこと(説明的な文章)

### 【特徴的な問題】

問題 2 長谷川 英祐 著『働かないアリの意義がある』より

### 出題の趣旨

説明的な文章を読むためには、段落ごとに内容を捉えたり、段落相互の関係を正しく押さえたりしながら、さらに大きな意味のまとまりごとに、文章全体における役割を捉えることが大切である。また、書き手の意図を推論しながら、自分の考えをまとめたり深めたりしていくことも重要である。

本問では、長谷川英祐の『働かないアリの意義がある』を取り上げた。文章全体と部分との関係、例示の効果などを考え、内容の理解に役立てるとともに、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすることや、文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げようとしている。

なお、平成30年度市調査【中2】2と同様、中学校学習指導要領解説「読むこと」の指導事項に沿った基礎問題を中心に選択式・記述式の形で出題した。



### 指導のポイント

#### 目的に応じて文章の内容を読み取る

目的に応じて文章の内容を的確に読み取るためには、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、文章の構成や展開を捉えて内容を理解するように指導することが大切である。その際、段落ごとに内容を捉えたり、段落相互の関係を正しく押さえたりしながら、更に大きなまとまりごとに、文章全体における役割を捉えるように指導することが重要である。また、図表などが示されている文章を読む際は、文章と図表などとの関連を捉えたり、書き手の意図やその効果について考えたりするように指導することが大切である。

指導に当たっては、平成23年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B2に係る授業アイデア例「文章の内容を『Q&A集』の形式で紹介する」、平成24年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A6に係る授業アイデア例「文章の展開に即して内容を捉えることができるようにする」も参考になる。

### 学習活動例

#### 説明的文章を読んで考えたことを伝え合う

「説明的文章を読んで考えたことを伝え合う」ための学習の見通しをもつ。

文章を読み、書かれている内容から疑問に思ったことをまとめる。

(第1時)

第1時にまとめた内容をもとに、各自で考えたいことを課題として設定する。

各自で考えを書き、同じ課題ごとにグループを作り、他者と考えを共有する。その後、改めて課題に対する自分の考えを書く。(第2時)

それぞれの課題についての考えを共有する。

学習したことを振り返り、まとめる。

(第3時)

(参照)

・国立教育政策研究所「平成30年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 国語」 p.66-72

## 中学校第2学年 話すこと・聞くこと

### 【特徴的な問題】

問題 3 生徒会新聞の内容を話し合う

### 出題の趣旨

話し合いは、情報の交換や意見の調整を通して新たな価値を創造したり、一定の合意を形成して物事を決めたりすることを目的として行われる。そのため、話し合いをする際には、話し合いの話題や方向を捉えて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりしながら、常に自分の考えと比較し、考えをまとめていく必要がある。

本問では、今年度最後に発行する生徒会新聞の内容について話し合っている場面を設定した。話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えとの共通点や相違点を整理し、比較したり、話し合いの話題や方向をとらえて、相手の立場や考えを尊重し、互いの発言を検討して自分の考えをまとめたり広げたりすることを求めている。

なお、平成27年度より「話すこと・聞くこと」に関する内容を実際の授業での活用を念頭に出題している。

### 指導のポイント

#### 話し合いの話題や方向を捉え、自分の考えをもつ

話し合いをする際には、話題や方向を的確に捉え、自分の考えをもちながら参加するように指導することが大切である。その際、必要に応じて話し合いの話題について確認したり、話し合いの経過を捉えたりすることができるように指導することも重要である。

例えば、小学校での学習を踏まえ、司会の進め方や話し合いの記録の仕方などを確認した上で、実際に記録を取りながら話し合いを行うなどの学習活動が考えられる。その際、話し合いの途中で、それぞれの発言の仕方について留意すべき点を確認したり、目指している到達点に向けて取り上げる話題をどのように絞り込めばよいかについて考えたりするなど、話し合いの仕方を見直しながらか進めるように指導することも効果的である。

指導に当たっては、さいたま市中学校教育課程指導資料（平成22年3月）「話し合い学習の実践」、さいたま市中学校教育課程指導資料（平成31年3月）「話し合いを効果的に進めるためのヒミツを探ろう」、平成24年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B1に係る授業アイデア例「対談を読んで考えたことを基に座談会を行う」、平成25年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A1に係る授業アイデア例「話し合いの動画を見ながら、司会の役割を話し合う」、平成31年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語2に係る授業アイデア例「『話し合いのデザインシート』を用いて話し合おう」も参考になる。



### 学習活動例

#### 話題や展開を捉えてグループで話し合う

これまでの話し合いを振り返り、学習の見通しをもつ。  
(第1時)

話し合いのテーマを確認し、自分の考えをまとめる。  
話し合いの流れと役割を確認する。  
グループで話し合いを行い、振り返りをする。  
(第2時)

前時の振り返りを踏まえ、同様の流れで話し合いを行う。  
学習したことを振り返り、日常生活や他教科との関連を考える。  
(第3～4時)

(参照)

- ・国立教育政策研究所「平成31年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 国語」 p.35-41
- ・さいたま市中学校教育課程指導資料（平成31年3月）

## 中学校第2学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

### 【特徴的な問題】

問題 5 4 「鳩と蟻の事」(『伊曾保物語』より)

### 出題の趣旨

伝統的な言語文化に関する事項については、小学校における古典の学習を踏まえ、文語のきまりなどの基礎的な事項を知り、古典の特徴について理解を深めるとともに、古典の世界に親しむことが大切である。

本問では、『伊曾保物語』より「鳩と蟻の事」を取り上げた。歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読んだり、古典の文章と現代語訳とを対応させて内容を捉えたりすることを求めている。

### 指導のポイント

#### 文語のきまりについて理解する

文語のきまりについては、言葉の意味を考えながら音読したり、音読を聞いたりすることを通して古典特有のリズムを味わいながら理解するように指導することが大切である。

#### 現代語訳や語注などを手掛かりにして古典を読む

現代語訳や語注などを手掛かりにして古典を読む際には、言葉のまとまりや意味に留意しながら内容を捉えることができるように指導することが引き続き大切である。

例えば、古典の易しい現代語訳を読んで内容を概括した上で、古典を読むなどの学習活動が考えられる。

指導に当たっては、さいたま市中学校教育課程評価資料(平成23年3月)「群読を通して清少納言の季節感を読み取ろう」、さいたま市中学校教育課程指導実践事例集(平成24年3月)「『芭蕉の思いを読み取ろう』～俳句を引用して書こう～」、さいたま市中学校教育課程指導資料(平成31年3月)「『孔子のお悩み相談室』～孔子の思いに触れよう～」、平成21年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A8に係る授業アイデア例「様々な方法を用いて、古典の内容を大まかにとらえることができるようにする」も参考になる。

### 学習活動例

#### 古典の紙芝居を作り、紹介する



学習する古典作品について知り、学習の見通しをもつ。  
紙芝居にする話を選び、グループを作る。

(第1時)

グループごとに選んだ話を読み、計画を立てて場面ごとの絵や写真を準備する。  
古文を読む練習をする。

(第2～3時)

発表会を行う。  
学習したことを振り返る。

(第4時)

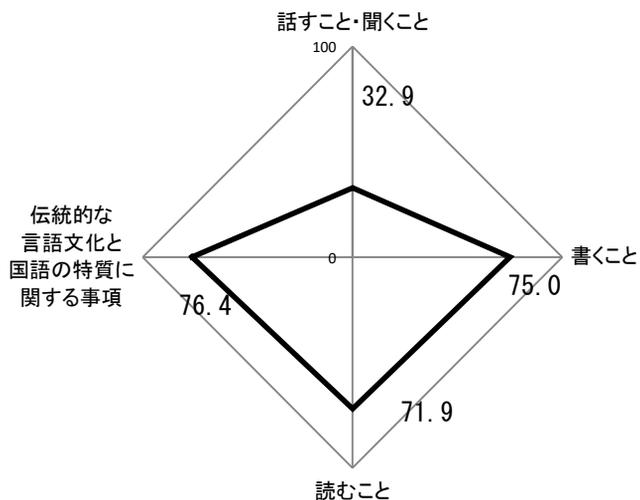
(参照)

・国立教育政策研究所「平成30年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 国語」 p.51-64

# III 領域別調査結果概況【市全体】

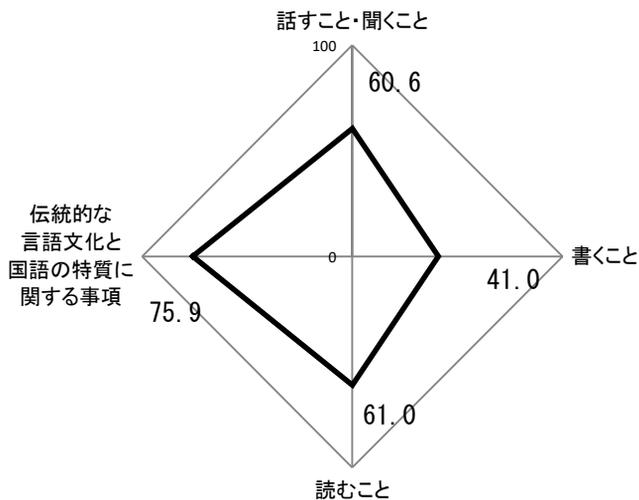
## 小学校第3学年

【領域別レーダーチャート】



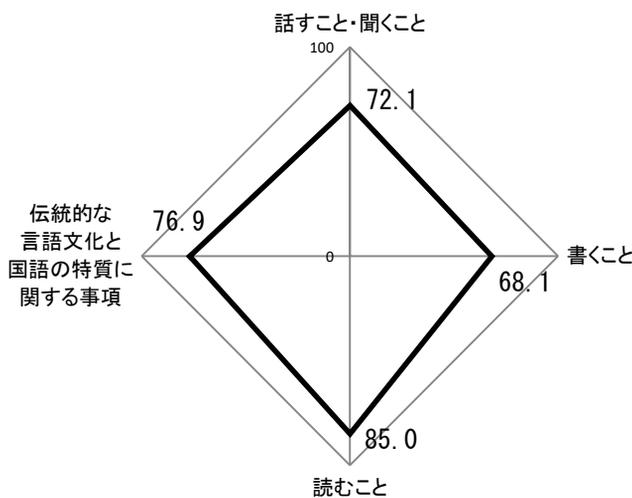
## 小学校第4学年

【領域別レーダーチャート】



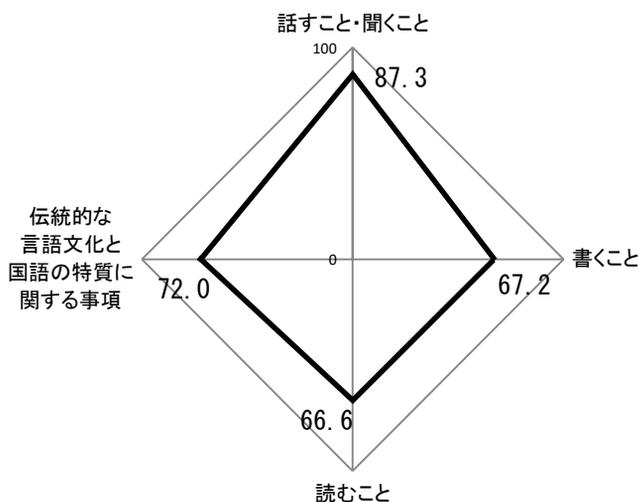
## 小学校第5学年

【領域別レーダーチャート】



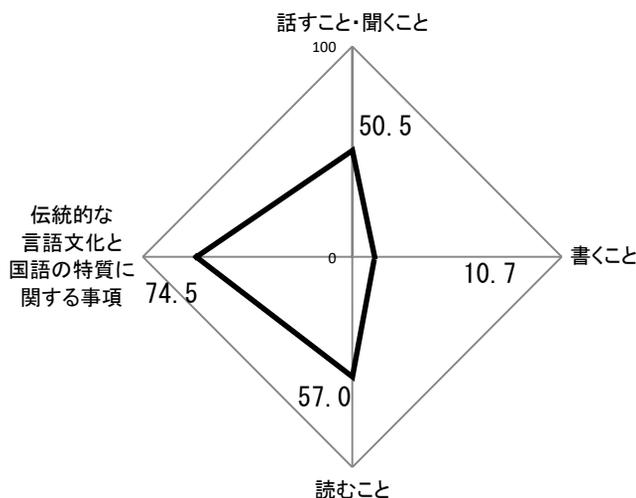
## 小学校第6学年

【領域別レーダーチャート】



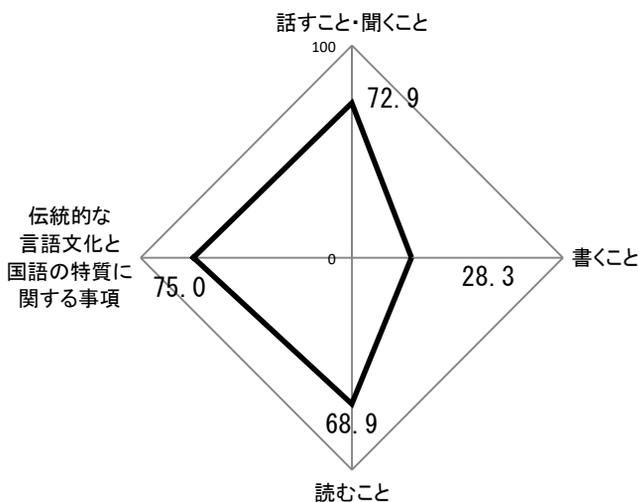
## 中学校第1学年

【領域別レーダーチャート】



## 中学校第2学年

【領域別レーダーチャート】



## IV 解答類型を基にした分析

### 小学校第3学年

設問番号	設問のねらい	解 答 類 型										分 析		
		1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無解答			
1二イ	文の中の主語と述語の関係を理解している。	36.8	3.4	44.8								12.6	2.4	類型3の反応率が高いことから、述語については理解しているが、主語についての理解に課題があると考えられる。他の学年についても同様の傾向である。文や文章を理解したり表現したりすることと関連付けて繰り返し指導することが大切である。
3	目的に応じて、中心になる語や文を捉えて、文章を読むことができる。	5.2	59.3	5.4	23.2							3.2	3.6	類型4の反応率が高いことから、たこを高く上げる方法として風の向きとの関係を捉えることができなかったと考えられる。調べるために読む、紹介するために読むなど、本や文章を読む目的を明確に設定して指導する必要がある。
6	相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話することができる。	3.9	32.9	2.7	45.1							0.2	15.1	正答である類型2の反応率が低く、話したことが聞き手に十分伝わっているかを判断するために、相手を見て話すことに課題がみられる。4年生についても同様の傾向である。聞き手を意識して分かりやすく話す力を付けるためには、内容面と音声面の両面からの指導を充実させる必要がある。

### 小学校第4学年

設問番号	設問のねらい	解 答 類 型										分 析		
		1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無解答			
1二イ	文の中の主語と述語の関係を理解している。	41.8	2.2	47.7								7.5	0.9	類型3の反応率が高いことから、述語については理解しているが、主語についての理解に課題があると考えられる。他の学年についても同様の傾向である。文や文章を理解したり表現したりすることと関連付けて繰り返し指導することが大切である。
3川村	目的に応じて、中心になる語や文を捉えて、文章を読むことができる。	20.2	3.3	9.4	8.8	55.8						0.6	1.9	類型1の反応率が高いことから、川村さんの感想の「材料」という言葉を「われにくくなる」という目的と結び付けて捉えることができなかったと考えられる。何のために調べるのか、何について調べるのかを明らかにしながら読むことを繰り返し指導することが大切である。
4	相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べることができる。	41.0	36.0	1.2	0.2							14.8	6.8	誤答の中でも類型2の反応率が高いことから、グラフなどの資料がどのような項目で構成しているのかを理解した上で、書く上で必要な事柄を調べることに課題があると考えられる。資料から相手や目的に応じて必要な事柄を取り出し、分かったことや考えたことを書く学習を充実させる必要がある。
5	相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話することができる。	4.0	49.9	1.4	37.7							0.4	6.6	3年生の大問6と同一問題である。3年生と比べ、正答率はやや高いが、類型4の反応率が高いのが、同じ傾向である。聞き手を意識して分かりやすく話す力を身に付けるためには、内容面と音声面の両面からの指導を充実させる必要がある。

## 小学校第5学年

設問番号	設問のねらい	解 答 類 型										分 析		
		1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無解答			
1二イ	文の中の主語と述語の関係を理解している。	57.4	2.9	17.0								22.2	0.5	類型3の反応率が高いことから、述語については理解しているが、主語についての理解に課題があると考えられる。他の学年についても同様の傾向である。文や文章を理解したり表現したりすることと関連付けて繰り返し指導することが大切である。
1三	相手や場面に応じて、適切に敬語を使うことができる。	5.0	37.8	3.2	51.1							2.2	0.7	類型2の反応率が高いことから、身内に対して尊敬語を用いることが適切ではないということを捉えることができなかったと考えられる。敬語を使う際には相手と自分との関係やその場の状況を意識して適切に使うことを指導し、敬語を使うことに慣れるような場や状況を設定することが大切である。
4二	自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えることができる。	16.6	15.7	22.5	43.1							1.2	1.0	正答率が43.1%だったことから、手紙の構成の効果を考えることに課題がある。手紙を書く際は、全文、本文、末文、後付けなど基本的な形式について指導する必要がある。後付けについては、宛名を最終行の上の位置に書くの意味についても指導することが大切である。
5	目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように、話の構成を工夫しながら話すことができる。	19.0	12.1	55.2	12.8							0.1	0.8	正答率が55.2%だったことから、話の構成を工夫しながら話すことに課題がある。相手に伝わるようにスピーチの構成や表現を工夫することは、日常生活全体においても重要である。そのためには、まず、自分の立場や結論を明確にした上で全体の構成を考える指導をしていくことが大切である。

## 小学校第6学年

設問番号	設問のねらい	解 答 類 型										分 析		
		1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無解答			
1ウ	当該学年の前までの学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。	29.0	47.1	23.6								0.1	0.2	類型1、3の反応率が高いことから、同音の漢字を文の中で正しく使うことに課題がみられる。漢字の学習をする際には、書き方を確認するだけでなく、漢字辞典や国語辞典を使い、使える熟語を増やしたり、同音異義語を確認したりするなど、漢字の意味を考えて使う習慣を付けるようにすることが大切である。
1二イ	文の中の主語と述語の関係を理解している。	64.8	1.8	16.5								16.6	0.3	類型3の反応率が高いことから、述語については理解しているが、主語についての理解に課題があると考えられる。他の学年についても同様の傾向である。文や文章を理解したり表現したりすることと関連付けて繰り返し指導することが大切である。
5	相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べることができる。	50.3	8.2	1.1								39.4	1.0	誤答の中でもその他の反応率が39.4%と高いことから、相手や目的に応じて書く上で必要な事柄を調べることに課題がみられる。相手や目的に応じて、文章、グラフ、図表などの資料を意図的・計画的に提示し、それらの読み方について重点的に指導することが必要である。
6一	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉えることができる。	29.5	1.6	50.9								14.4	3.5	正答である類型1の反応率が低く、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉えることに課題がみられる。「文章の内容を的確に押さえ」るためには、何のために、何を知りたいのか、どのような情報が必要なのかなどを明確にした上で、文章に書かれている話題、構成の仕方などに注意しながら、読むことが大切である。

中学校第1学年

設問番号	設問のねらい	解 答 類 型							分 析	
		1	2	3	4	5	その他	無解答		
2-3	文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分けているかどうかをみる。	9.2	8.1	22.2	<u>59.8</u>			0.1	0.7	適切な接続詞を選ぶ設問に課題がみられたことから、文章の内容を捉え、段落相互の関係について捉える指導の工夫が必要である。
2-4	文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要約したり要旨をとらえたりしているかどうかをみる。	<u>13.1</u>	49.9	4.6				20.3	12.2	本文の内容を基にして空欄に合うように記述する設問に課題がみられた。類型2は後半の空欄がまとめきれなかった類型であることから、文章の内容を捉えた上で、適切に表現する指導の工夫が必要である。
3-1	目的や意図に応じて、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などについての知識を生かし、相手の反応を踏まえながら話すことができるかどうかをみる。	1.3	32.5	7.6	<u>57.6</u>			0.1	1.0	聞き手に分かりやすい話し方として適切なものを選択する設問に課題がみられたことから、類型2にみられた言葉の調子に注意することも含め、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す指導の工夫が必要である。
5-2	修飾語と被修飾語の関係について理解しているかどうかをみる。	3.3	6.8	36.1	<u>49.1</u>			0.4	4.2	修飾語と被修飾語の関係を問う設問に課題がみられた。修飾語のすぐ下の文節を選んだ類型3の割合が多かったことから、文の構成における修飾・被修飾の関係について理解できるようにする指導の工夫が必要である。
5-7	文脈の中における表現の工夫やその効果を理解しているかどうかをみる。	7.5	20.9	1.8	<u>65.0</u>			0.0	4.7	表現の工夫とその効果を問う設問に課題が見られた。類型2は詩にはみられない体言止めの表現であったことから、様々な表現の工夫とその効果などを整理し、理解するための指導の工夫が必要である。(中2と同様)
6	考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理し、引用したり、図表などを用いたりして、根拠を明確にして自分の考えをまとめているかどうかをみる。	<u>8.7</u>	<u>2.0</u>	0.5	68.3	0.1	14.6		5.8	【資料2】から読み取ったことをもとにして理由を書くことに課題がみられた(類型4)ことから、資料を基にして自分が伝えたいことを正確に書く指導の工夫が必要である。(中2と同様)

中学校第2学年

設問番号	設問のねらい	解 答 類 型							分 析	
		1	2	3	4	5	その他	無解答		
1-3	文脈の中における心情を表す語句などに注意して読むことができるかどうかをみる。	19.2	2.9	<u>55.6</u>	21.7			0.1	0.5	心情を表す適切な語句を選択する設問に課題がみられた。解答類型がばらけたことから、描写を基に心情の変化を把握し、文章の内容を正しく捉える指導の工夫が必要である。
5-1	主語と述語の関係について理解しているかどうかをみる。〔H30中1大問5-1と類似〕	<u>59.6</u>	8.0	24.4				7.0	1.0	主語と述語の関係を問う設問に課題がみられた。主語に「私の」を選んだ類型3の割合が多かったことから、文の構成における主語・述語の関係について理解できるようにする指導の工夫が必要である。
5-5	故事成語の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができるかどうかをみる。	21.3	19.9	<u>45.3</u>	11.2			0.1	2.2	文脈に合う適切な故事成語を選択する設問に課題がみられたことから、語句の由来に関心をもたせたり、様々な語句を話や文章の中で使うための指導の工夫が必要である。
5-6	文脈の中における表現の技法やその効果を理解しているかどうかをみる。	4.1	19.7	2.9	<u>71.1</u>			0.0	2.2	表現の技法とその効果を問う設問に課題が見られた。類型2は詩にはみられない体言止めの表現であったことから、様々な表現の技法をその意味や用法とともに理解し使うための指導の工夫が必要である。(中1と同様)
6	意見や心情が効果的に伝わるように、材料を集めながら根拠を明確にして自分の考えをまとめているかどうかをみる。	<u>5.6</u>	<u>22.7</u>	3.4	47.4	0.0	17.1		3.9	【資料3】から読み取ったことを基にして理由を書くことに課題がみられた(類型4)ことから、資料を基にして自分が伝えたいことを正確に書く指導の工夫が必要である。(中1と同様)